家島諸島航路における交流人口拡大による
航路確保・維持に関する調査業務

報　告　書

令和２年３月

国土交通省 神戸運輸監理部

目　　　次

１．はじめに・・・ 1

(1)　調査の背景と目的・・・ 1

(2)　調査の内容・・ 1

(3)　検討体制・・ 2

２．家島諸島の現状および家島諸島航路の運営状況等の把握・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3

(1)　家島諸島の現状把握・・ 3

(2)　家島諸島航路の現状と今後の見通し・・ 10

３．他の地域における航路運営等の事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

(1)　収集事例の概要・・・ 16

(2)　取り組みの内容・・・ 17

４．家島諸島における観光の動向・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

(1)　観光客の動向・・・ 27

(2)　観光活性化の取り組み状況・・ 28

(3)　効果的な情報発信を実施している他の事例・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 40

５．共通乗船サービスに係る社会実験の実施・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41

(1)　目　的・・・ 41

(2)　実施期間・・ 41

(3)　対　象・・・ 41

(4)　実施方法・・ 41

(5)　周知方法・・ 41

６．アンケート調査の実施・・ 42

6.1　概　要・・・ 42

6.2　家島諸島の魅力度調査（その１）・・・ 43

(1)　調査の概要・・ 43

(2)　回答者の属性・・ 44

(3)　今回の家島訪問について・・ 46

(4)　交通手段について・・ 53

6.3　家島諸島の魅力度調査（その２） ･･････ 55
(1)　調査の概要 ･･････ 55
(2)　回答者の属性 ･･････ 56
(3)　今回の家島訪問について ･･････ 58
(4)　交通手段について ･･････ 64
6.4　家島諸島の観光に関する意識調査 ･･････ 67
(1)　調査の概要 ･･････ 67
(2)　回答者の属性 ･･････ 68
(3)　家島諸島への観光について ･･････ 69

７．交流人口の拡大に向けた課題整理 ･･････ 74
(1)　アンケート調査結果のまとめ ･･････ 74
(2)　交流人口の拡大に向けた課題 ･･････ 76

８．交流人口を拡大させるための方策（案） ･･････ 78
(1)　観光施設等の環境整備 ･･････ 78
(2)　観光客等に対する定期航路の利便性の向上 ･･････ 78
(3)　家島観光に対する情報発信 ･･････ 79
(4)　島民の観光客に対するおもてなし機運の醸成 ･･････ 80

９．まとめ（取り組みの実施と将来を見通した体制の充実に向けて） ･･････ 81

資　料　編 ･･････ 83

１．はじめに

(1)　調査の背景と目的

家島諸島では、家島諸島住民の日常生活（姫路市街地への通勤・通学、買い物、通院等）や家島諸島への業務や観光などの活動に資するため、姫路～家島（２事業者）、姫路～坊勢島（２事業者）、家島～坊勢島（１事業者）に定期航路（以下、これらを称して「家島諸島航路」という。）が運航されている。

家島諸島の島民にとって家島諸島航路は必要不可欠な航路であるが、島民の少子高齢化・人口減少による利用者数の減少が続いている。今後さらなる利用者の減少が予想される中、将来的に航路を安定的に確保・維持するためには、地域を活性化し家島諸島での人口の定着を図るほか、観光振興等による交流人口の拡大を図ることが喫緊の課題である。

本調査では家島諸島航路の活性化を図るため、姫路市及び地域関係者と連携し、観光振興等による交流人口の拡大に向けた課題や解決方法について検討を行う。

(2)　調査の内容

上記に示した目的を達成するため、本調査では次に示す項目に関する検討を行った。

①　家島諸島の現状および家島諸島航路の運営状況等の把握

過去の調査資料等を活用し、家島諸島の人口、産業等の現状及び家島諸島航路の利用実績、運航状況等の現状を整理した。

②　他の地域における航路運営等の事例収集

他の地域（離島）において、旅客船を利用した観光振興策に取組んでいる事例等を把握した。また、旅客船航路において、観光客をはじめとする利用客への満足度向上のため、付加価値をつけた航路運営を行っている事例を収集した。

③　家島諸島の観光に関する調査

家島諸島の観光について、観光情報の発信や観光振興に関する取組状況について調査するとともに「しまたび」に代表される旅行商品の造成や販売状況について、情報収集した。

また、観光客をはじめとする来島者の観光動向を把握するため、島の魅力等に関するアンケート調査等を実施した。

④　共通乗船サービスに係る社会実験の実施

姫路～家島航路を利用する観光客の利便性向上を図るため、旅客船２社が運航する全ての便が利用できる「共通乗船サービス」について社会実験を行い、利便性に関する評価を行うとともに、運営における課題を検証した。

⑤　家島諸島航路における交流人口拡大による航路確保・維持における課題抽出

①～④の調査を踏まえ、旅客船航路の利用者利便の向上に係る課題と観光振興における旅客船航路の利用に係る課題を整理した。

⑥　課題解決の方策提案

⑤で抽出した課題や旅客船航路の活用につながる観光情報を潜在的来島者に効果的・効率的に届けるための仕組みづくりについて、その方策案をとりまとめた。

(3)　検討体制

本調査の実施に当たっては、航路事業者、関係自治体、国等の行政機関等で構成される「家島諸島航路における交流人口拡大による航路確保・維持に関する検討委員会」を設置して検討した。

「家島諸島航路における交流人口拡大による航路確保・維持に関する検討委員会」

【委員】

喜多　秀行	神戸大学大学院工学研究科教授（委員長）
畑野　長利	高速いえしま株式会社　代表取締役
髙山　欣也	有限会社髙福ライナー　代表取締役
小林　正和	坊勢汽船株式会社　専務取締役
髙山　知久	輝観光　代表
今井　新吾	株式会社ＪＴＢ姫路支店　営業課　観光開発シニアプロデューサー
岡部　賀胤	一般社団法人家島観光事業組合　代表理事
森本　吉胤	公益社団法人姫路観光コンベンションビューロー　観光担当部長
坂本　直子	兵庫県中播磨県民センター　副センター長
植田　敏勝	姫路市都市局　交通計画室長
石川　博樹	姫路市観光交流局　観光文化部観光振興課長
川端　淳司	神戸運輸監理部　総務企画部　海事交通計画調整官
西澤　和彦	神戸運輸監理部　海事振興部　旅客課長
内山　雅史	神戸運輸監理部　姫路海事事務所長

【事務局】

土谷　　穣	神戸運輸監理部　総務企画部　企画課長
小南　　誠	神戸運輸監理部　総務企画部　企画課長補佐
山口　浩司	神戸運輸監理部　総務企画部　企画課　企画・情報係
岸野　啓一	株式会社シティプランニング　取締役

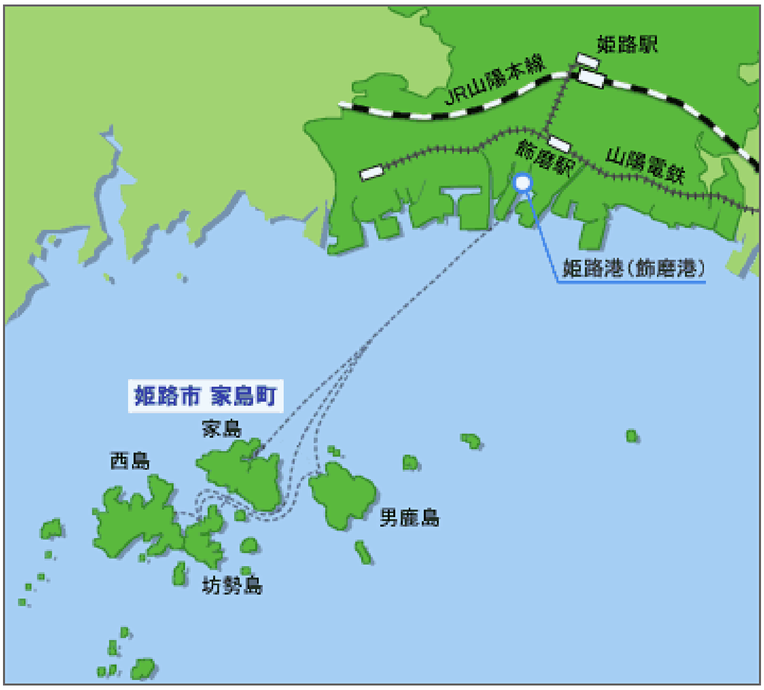
２．家島諸島の現状および家島諸島航路の運営状況等の把握

(1)　家島諸島の現状把握

①　位　置

家島諸島は播磨灘の北西に位置し、東西約 27 ㎞、南北約 19 ㎞にわたって散在する 40 余りの島々から構成される。明治 22 年（1889 年）に家島村が設置され、昭和３年（1928 年）に町制が施行されて家島町となり、平成 18 年（2006 年）３月に姫路市に合併された。

図－1　家島諸島の位置



出典：姫路市ホームページ

② 人 口

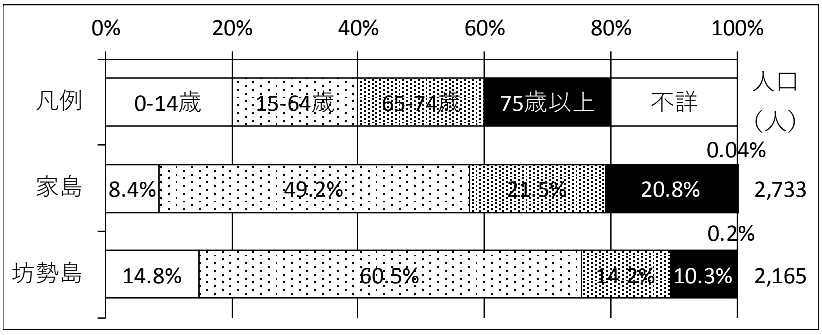
人が常住するのは家島、坊勢島、男鹿島、西島の４島であり、４島を合わせた面積は18.50㎢、人口は4,898人（平成27年国勢調査）となっている。その約56%に当たる2,733人が家島に、約44%に当たる2,165人が坊勢島に居住している（注）。

注：人口統計の地域区分（国勢調査の小地域集計の区分）の制約から、男鹿島（平成27年に31人）と西島（平成27年に２人）の人口は家島に含まれる。

家島諸島でも人口の高齢化は進展しており、家島の平成27年における65歳以上人口比率は43.3%、外出が困難になる人が増えるといわれている75歳以上人口比率は20.8%となっている。

これに対し、後述のように漁業が盛んな坊勢島では15-64歳が60.5%を占め、65歳以上人口比率は24.5%、75歳以上人口比率は10.3%に留まっている。65歳以上人口比率は、兵庫県（27.1%）や姫路市（25.1%）より低い水準である。

図－2 家島・坊勢島の年齢４区分別人口（平成27年）



注：年齢不詳（家島１人、坊勢島４人）を含む。

資料：国勢調査

家島諸島では人口の減少が著しい。コーホート要因法（次頁参照）の考え方により、年齢５歳階級ごとの平成22～27年の人口増減率（たとえば、平成22年の20～24歳と平成27年の25～29歳の比率）を国勢調査データに基づいて算出し、その比率が今後も継続するという仮定に基づいて将来人口を推計したところ、

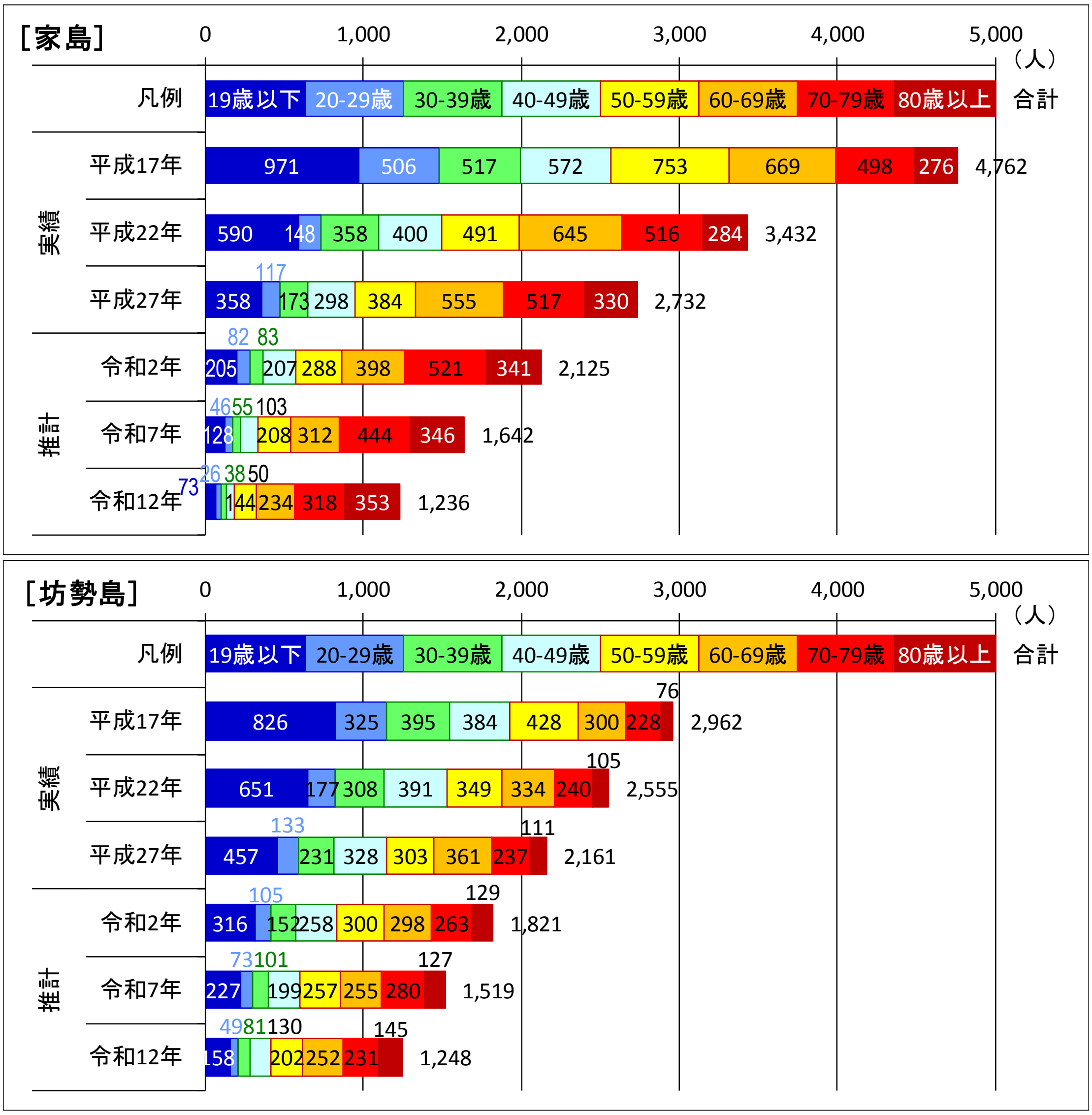
・11年後の令和12年には家島、坊勢島の人口がともに1,200人余りにまで減少すること

・両島とも40歳未満の人口が激減し、令和12年には人口の大半を50歳以上が占めること

・家島では坊勢島に比べて人口減少のスピードが速いこと

などの状況が今後生じるものと見通される。

図－3　家島・坊勢島の人口の将来予測



注：国勢調査の小地域集計に基づく予測。年齢不詳（家島１人、坊勢島４人）は除いている。

（参考）コーホート要因法による将来人口の予測方法

- 人間は誰しも１年に１歳加齢するため、自然減（死亡）や社会移動がなければ、たとえば、５年後の 25～29 歳の人口は、現在の 20～24 歳の人口と同じと推計できる。
- 実際には、その間に死亡する人がいるため、過去の実績から年齢階層（５歳階級）ごとに「生残率」を求め、それを人口に乗じて自然減を反映した５年後の人口を推計する。
- 社会移動も生じるため、年齢階層ごとに過去５年間の社会移動率（社会移動に伴う人口の増減率）を求め、それを人口に乗じて社会移動を反映した５年後人口を推計する。
- なお、新たに生まれる人口は、15～49 歳の女性人口に対する出生率を用いて推計する。
- ここでは、家島、坊勢島それぞれについて、５歳階級ごとに平成 22 年と 27 年の人口の増減率（たとえば、平成 27 年の 25～29 歳と平成 22 年の 20～24 歳の比率、生残率と社会移動率の合成値を意味する）を求め、その値が今後も変わらないとして将来人口を予測した。

③　産　業

家島諸島では、男鹿島や西島における採石業やそれを運搬するための海運業、および漁業が盛んであり、これまで基幹的な産業として当該地域の発展を支えてきた。

家島は海運の中心であり、運輸・通信業に従事する人の割合が高い。しかし、大規模な地域開発プロジェクトの減少や景気の低迷などの影響により採石業が縮小傾向にあり、それに伴って運輸・通信業の従事者も減少している。

また、過年度調査において実施した海運業に関する関係機関へのヒアリングでは、次のような問題が指摘されている。

・家島の海運業を支える砂利石材運搬船（通称「ガット船」）について、家島を拠点とする船舶は約 90 隻ある。そのうち約 20 隻が船齢 30 年を超えている。

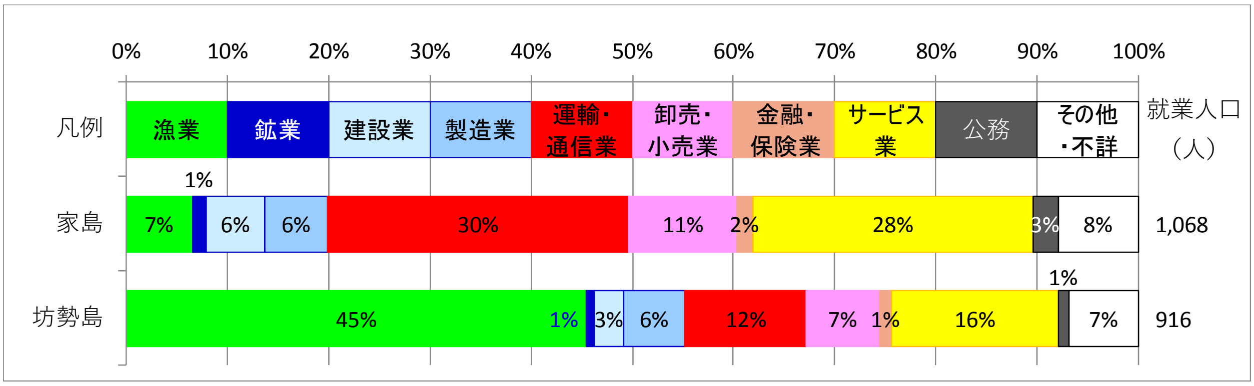
・これらの船舶は船齢 33 年における定期検査は受検せず、廃船となる可能性が高いことが指摘された。

・ガット船が廃船になると船員が家島から他地域に転出する可能性があり、人口減少への影響が懸念される。家族を伴って転出すれば、影響はさらに大きくなる。

一方、坊勢島の基幹産業は漁業である。坊勢港は登録漁船数が 930 隻（※）、漁協組合員数が 500 人を超える（※）など、全国有数の漁港である。近畿圏という大消費地に水産物を供給する基地として重要な役割を果たすなど、地域の活性化のために重要な産業となっている。

※　いずれも坊勢漁業協同組合ＨＰによる（令和元年７月掲載）

図－4　家島・坊勢島の産業別就業人口（平成 27 年）



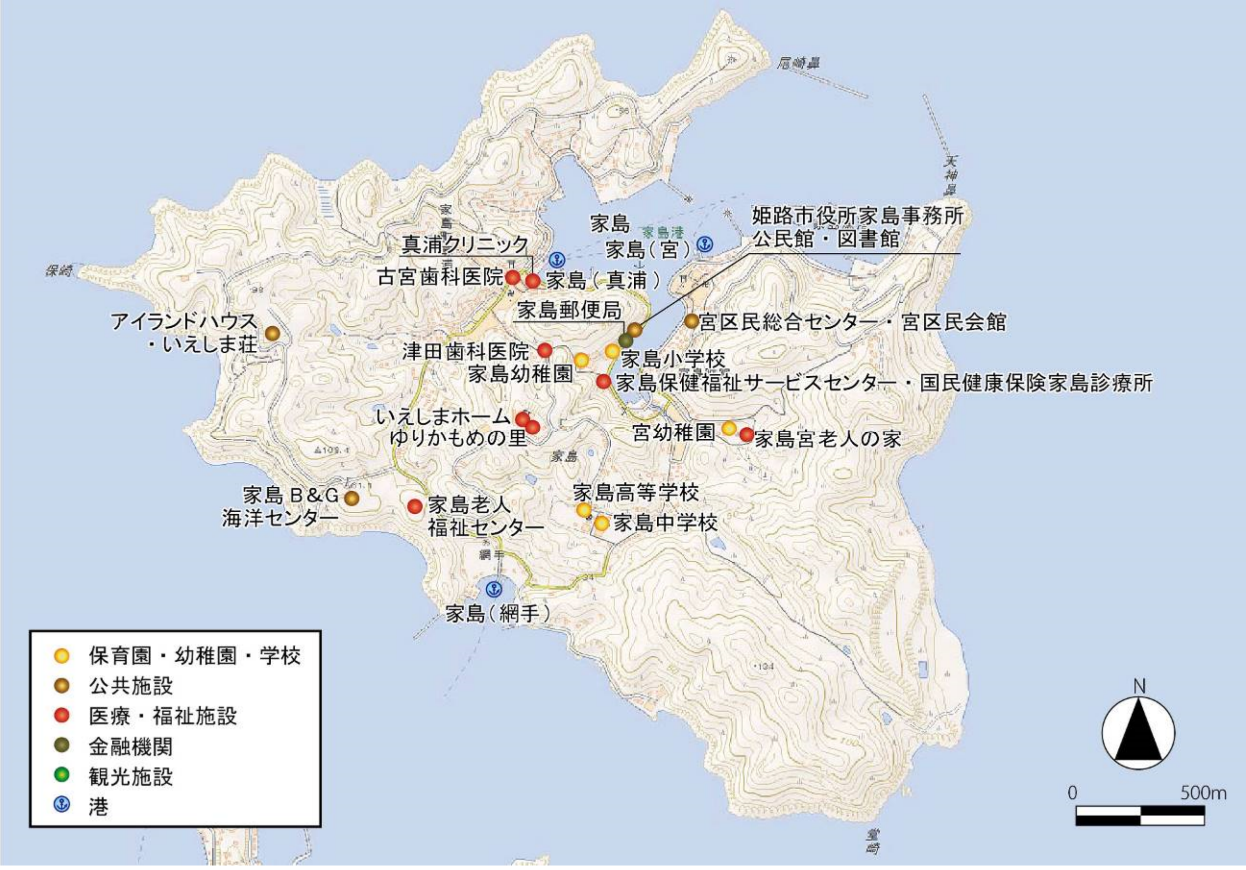
④　生活関連施設

家島には市立小・中学校、県立高校、姫路市役所家島事務所、郵便局、銀行、１次医療機関（専門の診療科が区分された診療所）、歯科医院、介護サービス施設、個人商店、飲食店などが立地している。坊勢島には、市立小・中学校、姫路市役所坊勢サービスセンター、郵便局、１次医療機関（開業医）、歯科医院、個人商店、飲食店などが立地している。

そのため、家島の居住者は、高校までの通学や入院を伴わない医療機関での受診、食料品・日用品等の買い物などの日常生活に必要な基礎的な活動は家島の島内で行うことができる。坊勢島の居住者は、小・中学校の通学やかかりつけ医での受診、食料品・日用品等の買い物などの活動は坊勢島の島内で行うことができるが、高校への通学や専門医の受診などは坊勢島の島内ではできない。

図－5　生活関連施設の分布図

＜家島＞



＜坊勢島＞

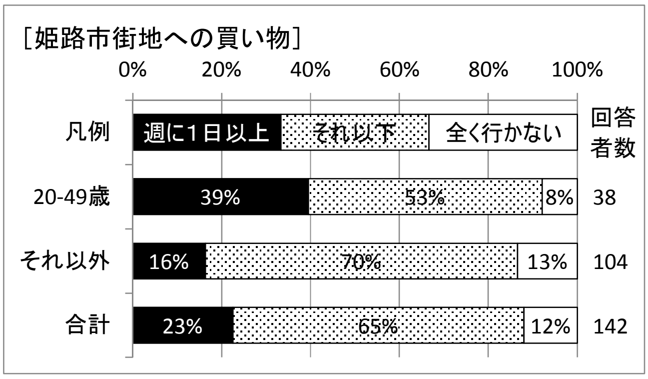
⑤　日常生活における移動

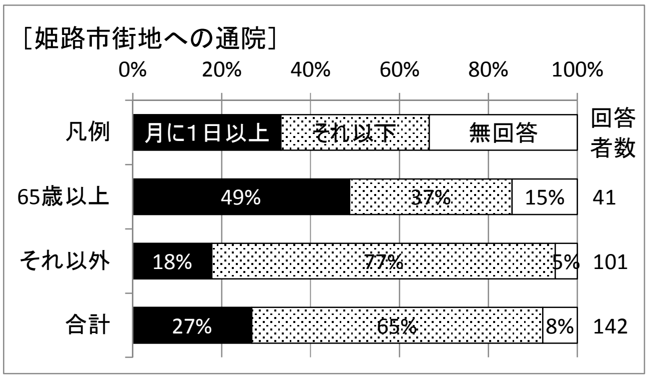
その一方で、家島諸島には大学や専門学校、２次医療機関、大規模な商業施設などは立地していない。加えて、家島諸島に立地する高校は県立１校に限られ、家島諸島の医療機関にて受診できる診療科も限定される。そのため、大学や専門学校、高校への通学、専門医の受診や入院・手術を伴う受診、買回り品の買い物などのためには、姫路市街地まで出向く必要がある。

平成 26 年度に実施した調査によると、家島諸島の居住者の 23%（特に 20～49 歳では 39%）は週に１日以上、姫路市街地まで買い物に出掛けていることがわかっている。また、家島諸島の居住者の 27%（65 歳以上では 49%）が月に１日以上、姫路市街地まで通院していることが明らかになっている。

姫路市街地に全く行かないという人は 10%程度であり、家島諸島の居住者は日常生活において姫路市街地に行く機会が少なくないことが傍証される。

図－6　家島諸島居住者の姫路市街地への買い物・通院の頻度





資料：「近畿圏の離島航路における災害時等の運航のあり方に関する調査」（神戸運輸監理部、平成 27 年３月）にて実施したアンケート調査より集計

(2)　家島諸島航路の現状と今後の見通し

①　運航区間とサービス水準

家島諸島では、家島、坊勢島、男鹿島、西島と姫路を結ぶ定期船が航路事業者５社によって運航されている。

姫路～家島は２社が運航しており、合わせて平日 16 往復、土日祝 17 往復が運航されている。

姫路～男鹿島・坊勢島・西島についても２社が運航しており、姫路～坊勢島間は合わせて平日 14 往復、土日祝 15 往復が運航されている。このうち、１社の４往復は男鹿島を経由する。坊勢島～西島間は、定期便が２社合わせて２往復運航されており、他に臨時便が合わせて７往復設定されている。

また、家島～坊勢島を１社が運航している。7:15～18:00 の間、平日と土曜日は 12 往復、日祝日は 10 往復運航されている。

図－7　家島諸島航路の航路図

表－1　航路事業者とサービス概要

航路事業者	運航区間（定期）	運航時間帯	便数	運賃（円）
高速いえしま（株）	姫路～家島（真浦・宮）	6:20～21:18	8往復	1,000円
（有）高福ライナー	姫路～家島（真浦・宮）	6:00～20:30	平日8・土日祝9往復	1,000円
坊勢汽船（株）	姫路～男鹿島～坊勢島（奈座）	6:35～20:30	7往復	1,100円
	坊勢島（奈座）～西島	8:07～17:34	定期1・臨時3往復	270円
輝観光	姫路～坊勢島（奈座）	6:10～19:52	平日7・土日8往復	1,100円
	坊勢島（奈座）～西島	7:39～16:47	定期1・臨時4往復	270円
坊勢渡船（有）	家島（網手）～坊勢島（奈座）	7:15～18:00	平日土12・日祝10往復	310円

注：運航時間帯は平日の始発便の出発時刻～最終便の到着時刻を表す。
資料：航路事業者ＨＰ、家島観光事業組合ＨＰ（時刻は令和元年７月現在）

表－2　家島諸島航路時刻表

姫路→家島					家島→姫路				
	航路事業者	姫路発	真浦着	宮着		航路事業者	宮発	真浦発	姫路着
1	高福ライナー	6:55	7:22	7:28	1	高福ライナー	6:00	6:10	6:37
2	高速いえしま	7:10	7:41	7:48	2	高速いえしま	6:20	6:30	7:01
3	高福ライナー	8:18	8:45	8:53	3	高福ライナー	7:31	7:37	8:04
4	高速いえしま	9:10	9:48	←9:41	4	高速いえしま	8:20	←8:10	8:51
5	高福ライナー	10:00	10:27	10:35	5	高福ライナー	9:02	9:10	9:37
6	高速いえしま	11:05	11:43	←11:36	6	高速いえしま	10:20	←10:10	10:51
7	高福ライナー	11:40	12:07	12:15	7	高福ライナー	10:50	11:00	11:27
8	高福ライナー	13:10	13:37	13:45	8	高福ライナー	12:22	12:30	12:57
9	高速いえしま	13:45	14:16	—	9	高速いえしま	—	13:00	13:31
10	高速いえしま	15:30	16:01	16:15	10	高速いえしま	14:50	←14:40	15:21
11	高福ライナー	16:30	16:57	17:05	11	高福ライナー	15:35	15:45	16:12
12	高速いえしま	17:10	17:41	17:48	12	高速いえしま	16:20	←16:10	16:51
13	高福ライナー	18:15	18:42	18:50	13	高福ライナー	17:33	←17:25	18:00
14	高速いえしま	19:00	19:38	←19:31	14	高速いえしま	18:20	←18:10	18:51
15	高福ライナー	19:55	20:22	20:30	15	高福ライナー	19:00	19:10	19:37
16	高速いえしま	20:40	21:18	←21:11	16	高速いえしま	20:00	←19:50	20:31
17	高福ライナー	21:30	21:57	22:05	17	高福ライナー	20:42	20:50	21:20

注：赤字は土・日・祝日のみ運航

姫路→男鹿島→坊勢島→西島						西島→坊勢島→男鹿島→姫路					
	航路事業者	姫路発	男鹿島着	坊勢島着	西島着		航路事業者	西島発	坊勢島発	男鹿島発	姫路着
1	輝観光	7:03	—	7:35	○7:43	1	輝観光		6:10	—	6:42
2	坊勢汽船	7:25	7:49	7:58	8:04	2	坊勢汽船		6:35	6:44	7:08
3	輝観光	9:00	—	9:32	9:40	3	輝観光	○7:46	8:08	—	8:40
4	坊勢汽船	10:05	10:29	10:38	○10:44	4	坊勢汽船	8:07	9:00	—	9:27
5	輝観光	11:35	—	12:07	12:15	5	輝観光	9:43	9:55	—	10:27
6	坊勢汽船	13:05	13:29	13:38	13:44	6	坊勢汽船	○10:47	11:20	11:29	11:53
7	輝観光	14:00	—	14:32	14:40	7	輝観光	12:40	13:18	—	13:50
8	坊勢汽船	15:05	—	15:32	15:38	8	坊勢汽船	13:47	14:10	—	14:40
9	輝観光	16:00	—	16:32	16:40	9	輝観光	14:43	15:10	—	15:42
10	坊勢汽船	16:55	17:19	17:28	17:34	10	坊勢汽船	15:41	16:00	16:09	16:33
11	輝観光	17:57	—	18:29		11	輝観光	16:43	17:10	—	17:42
12	坊勢汽船	18:40	—	19:10		12	坊勢汽船		17:50	17:59	18:23
13	輝観光	19:20	—	19:52		13	輝観光		18:38	—	19:10
14	坊勢汽船	20:00	—	20:30		14	坊勢汽船		19:20	—	19:50
15	輝観光	21:00	—	21:32		15	輝観光		20:15	—	20:47

注：坊勢島～西島の○印は定期便、その他は臨時便。
輝観光の坊勢島～西島は３月１日～11 月 30 日の間運航。赤字は土・日のみ運航。

坊勢島→家島（網手）				家島（網手）→坊勢島			
	航路事業者	坊勢島発	網手着		航路事業者	網手発	坊勢島着
1	坊勢渡船	7:15	7:25	1	坊勢渡船	7:30	7:40
2	坊勢渡船	7:50	8:00	2	坊勢渡船	8:10	8:20
3	坊勢渡船	8:35	8:45	3	坊勢渡船	8:55	9:05
4	坊勢渡船	9:35	9:45	4	坊勢渡船	9:55	10:05
5	坊勢渡船	10:35	10:45	5	坊勢渡船	10:50	11:00
6	坊勢渡船	11:35	11:45	6	坊勢渡船	11:50	12:00
7	坊勢渡船	12:35	12:45	7	坊勢渡船	12:50	13:00
8	坊勢渡船	13:35	13:45	8	坊勢渡船	13:50	14:00
9	坊勢渡船	14:35	14:45	9	坊勢渡船	14:50	15:00
10	坊勢渡船	15:35	15:45	10	坊勢渡船	15:55	16:05
11	坊勢渡船	16:35	16:45	11	坊勢渡船	16:50	17:00
12	坊勢渡船	17:35	17:55	12	坊勢渡船	17:50	18:00

注：白抜き文字は日・祝日減便。
資料：航路事業者ＨＰ、家島観光事業組合ＨＰ（時刻は令和元年７月現在）

②　利用実績と今後の見通し

図－8 は家島諸島航路の過去 10 年間の利用実績について、姫路～家島、姫路～坊勢島、家島～坊勢島に区分して図化したものである。

また、姫路～家島、姫路～坊勢島については、平成 28 年度調査で予測した令和２年、令和７年の利用者数の予測値を示すとともに、予測のベースとなった平成 27 年の利用実績と予測値（※）を結ぶトレンド（平成 27 年と令和２年、令和２年と令和７年をそれぞれ結ぶ直線）を合わせて図示している。

※　平成 28 年度調査では、次の考え方で将来利用者数を予測している。

- 家島諸島の島民による利用と、本土からの利用者数に区分して予測。
- 島民の利用については、年齢階層別に現状と同じ頻度で利用するとの仮定のもと、将来の年齢別人口の減少を反映して利用者数を予測。
- 本土からの利用については、家島諸島の公的機関や高校などが今後も維持されるなどの仮定のもと、本土からの航路利用者数は現状を維持すると仮定して予測。

［姫路～家島］

- 平成 30 年の利用者数は、航路事業者２社を合わせて 354.9 千人であった。
- 過去 10 年間の推移をみると、平成 22 年の利用者数が最も多く（432.7 千人）、利用者数は年を経るごとに減少する傾向が見られる。
- 将来予測の結果、令和２年の利用者数は 353.5 千人（平成 27 年の 87.4%）、令和７年の利用者数は 314.5 千人（同 77.8%）に減少することが見込まれる。
- また、平成 28 年～30 年の利用者数を、平成 27 年（実績値）と令和２年（予測値）を結ぶトレンドと比較すると、平成 28 年～30 年の利用者数は予測のトレンドを下回っている。すなわち、予測よりも速く利用者が減少している。
- その要因として、若い世代の人口が、人口予測の際に仮定した条件（平成 22～27 年の年齢階層別の人口減少率が今後も継続する）よりも速いペースで人口が減少していることなどが考えられる。
- これまでの調査事業等において、同航路の将来的な確保・維持のための方策の一つとして考えられていた、航路２社による経営統合については、現時点では緊急性を要するものではないが、急激な情勢変化への対応とともに、今日増加する観光客へのサービスの安定的提供の観点からも機敏に対応できるよう備えておくことが必要である。

［姫路～坊勢島］

・平成 30 年の利用者数は、航路事業者２社を合わせて 248.1 千人であった。

・平成 21 年～27 年にかけて、利用者数は約 260～280 千人で変動し、平成 22 年の利用者数が 280.5 千人で最も多かった。

・将来予測の結果、令和２年の利用者数は 239.5 千人（平成 27 年の 87.7％）、令和７年の利用者数は 210.8 千人（同 77.2％）に減少することが見込まれる。

・平成 28 年～30 年の利用者数を、平成 27 年と令和２年を結ぶトレンドと比較すると、利用者数の動向は予測のトレンドとほぼ一致している。

・これは、島民の人口減少による利用者減少への影響は表れているが、本土からの利用については維持していると解釈される。

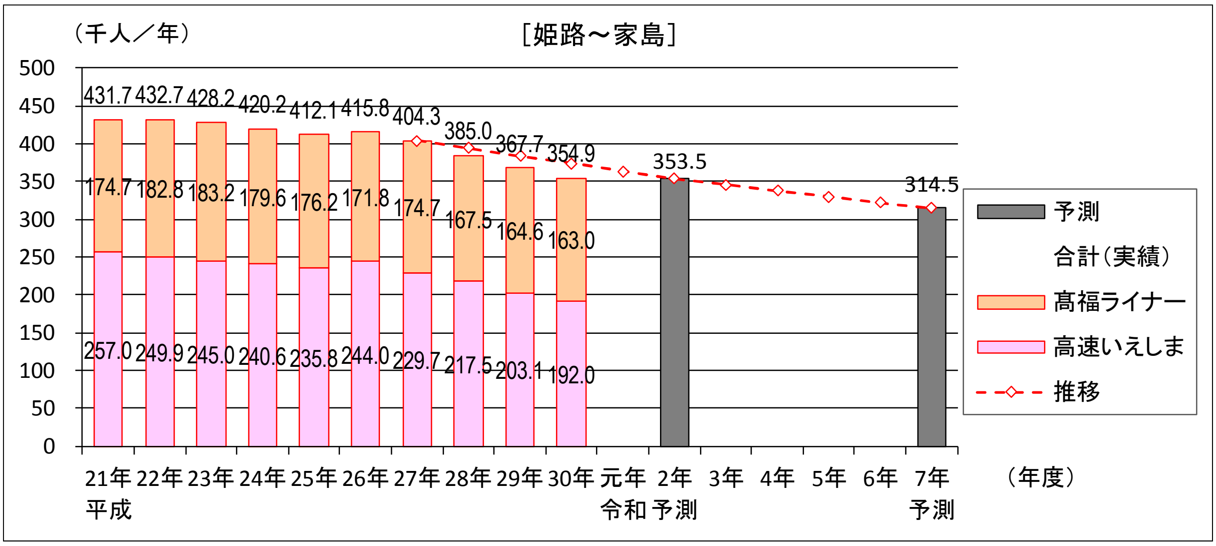
［家島～坊勢島］

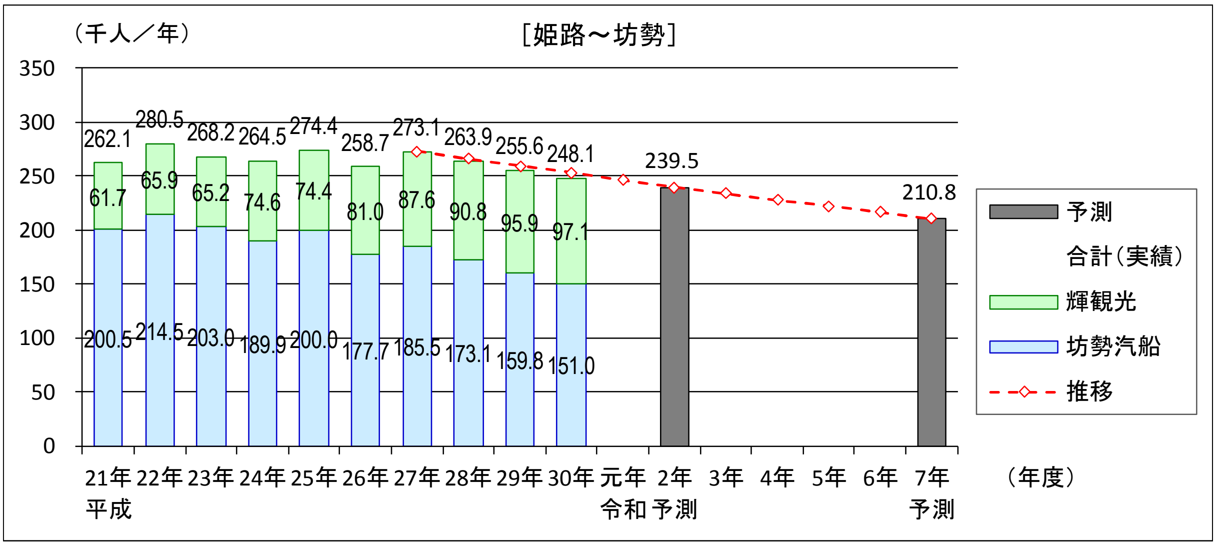
・平成 30 年の利用者数は 35.4 千人であった。

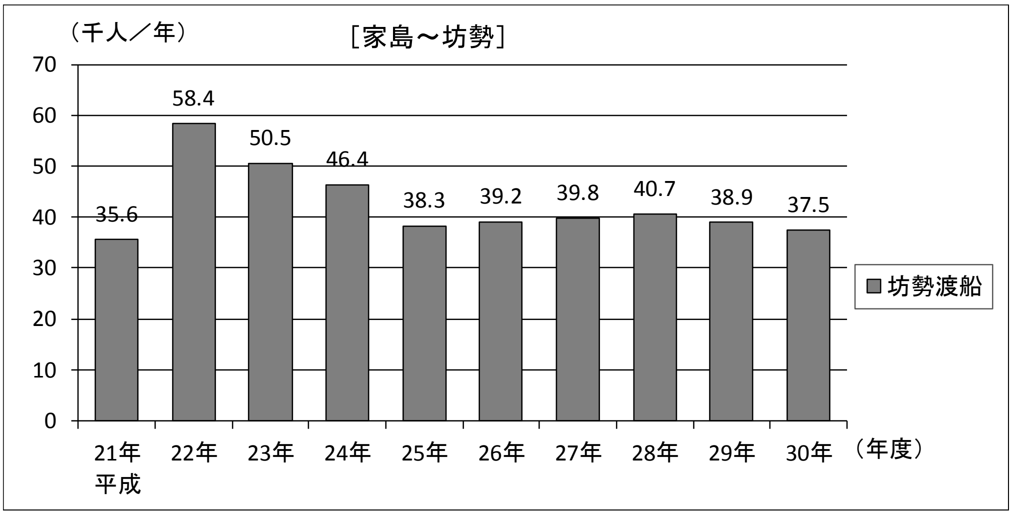
・過去 10 年の推移をみると、平成 22 年が 58.4 千人でピークとなったが、平成 25 年にかけて利用者数は減少し、その後は概ね 38～41 千人程度の狭いレンジで推移している。

・ただし、平成 28 年（40.7 千人）から平成 30 年（37.5 千人）にかけて減少し、平成 30 年の利用者数は平成 22 年以降で最も少なくなっている。

図－8　家島諸島航路の利用者数の推移と今後の見通し







資料：利用者数の実績は航路事業者資料による

３．他の地域における航路運営等の事例

(1)　収集事例の概要

家島諸島航路の利便性向上策や交流人口の拡大による定期航路の利用増進策に関する参考資料とするため、次の視点から他地域における事例を収集した。

・定期の旅客船航路により観光振興に取り組んでいる事例を対象とした。

・その際、観光客の満足度向上のため、付加価値をつけた航路運営を行っている事例についても収集した。

収集した事例の概要を以下に示す。

表－3　収集事例の概要

名称等	航路等（航路事業者等）	概　要
３日間乗り放題乗船券	高松～直島等８航路 （四国汽船等７事業者）	・瀬戸内国際芸術祭 2019 の会場となる５島と宇野または高松を結ぶ８航路のフェリーを対象 ・開催期間中の連続３日間、左記航路が乗り放題となる共通乗船券
松山・宮島クルーズパス	松山～広島～宮島 （石崎汽船・瀬戸内海汽船・瀬戸内シーライン）	・松山～広島の高速船（共同運航）と広島～宮島の高速船（別事業者）が乗継利用できる割引乗船券 （呉～広島～宮島でも同様の企画乗船券あり）
１日フリーパス	広島～江田島等７航路 （瀬戸内シーライン）	・広島～宮島、広島～江田島（３港）など瀬戸内シーラインが運航する７航路が１日乗り放題の乗船券
関門周遊パスポート	門司港～唐戸（関門汽船） 路線バス（西鉄バス・サンデン交通バス）	・関門海峡を渡る定期航路（２回まで）と北九州市内・下関市内の路線バス一部区間が自由に乗降できる共通乗車船券
絶景領域・萌えっ子フリーパス	羽幌～焼尻島～天売島 （羽幌沿海フェリー） 路線バス（沿岸バス）	・羽幌を中心とした路線バスのフリー切符 ・羽幌～天売島のフェリーが１割引で乗船可 ・キャラクターを設定し、フェリーと路線バスに共通のラッピングを施すなどの取り組みを実施
島原半島周遊パス	口之津～鬼池（天草） （島鉄フェリー） 鉄道・路線バス（島原鉄道）	・土日祝日の１日または連続２日間、島原鉄道の運営するフェリー、鉄道、路線バスが乗り放題になる周遊乗車券
よりみちクルーズ	鹿児島→桜島 （桜島フェリー）	・１日 65 往復（24 時間運航、所要 15 分）のうち、片道１便（鹿児島→桜島）のみ、景勝地などを経由して運航（所要 50 分）
呉湾おさんぽクルーズ	呉→江田島→呉 （瀬戸内シーライン）	・海上から呉のまちなみや造船所等の風景を見ながら呉湾内を周遊 ・定期旅客船として毎日９便運航
忍者高速船	津～中部国際空港 （津エアポートライン）	・セントレアがインバウンド誘致のため企画したキャンペーンに呼応し、空港アクセスの旅客船に忍者をテーマとした様々な趣向を施したもの
瀬戸内サイクルーズパス	中国運輸局管内・約 50 航路 （実施主体：中国旅客船協会）	・自転車とともに乗船すると運賃が割引となるパス ・島の協賛施設において割引も受けられる

(2)　取り組みの内容

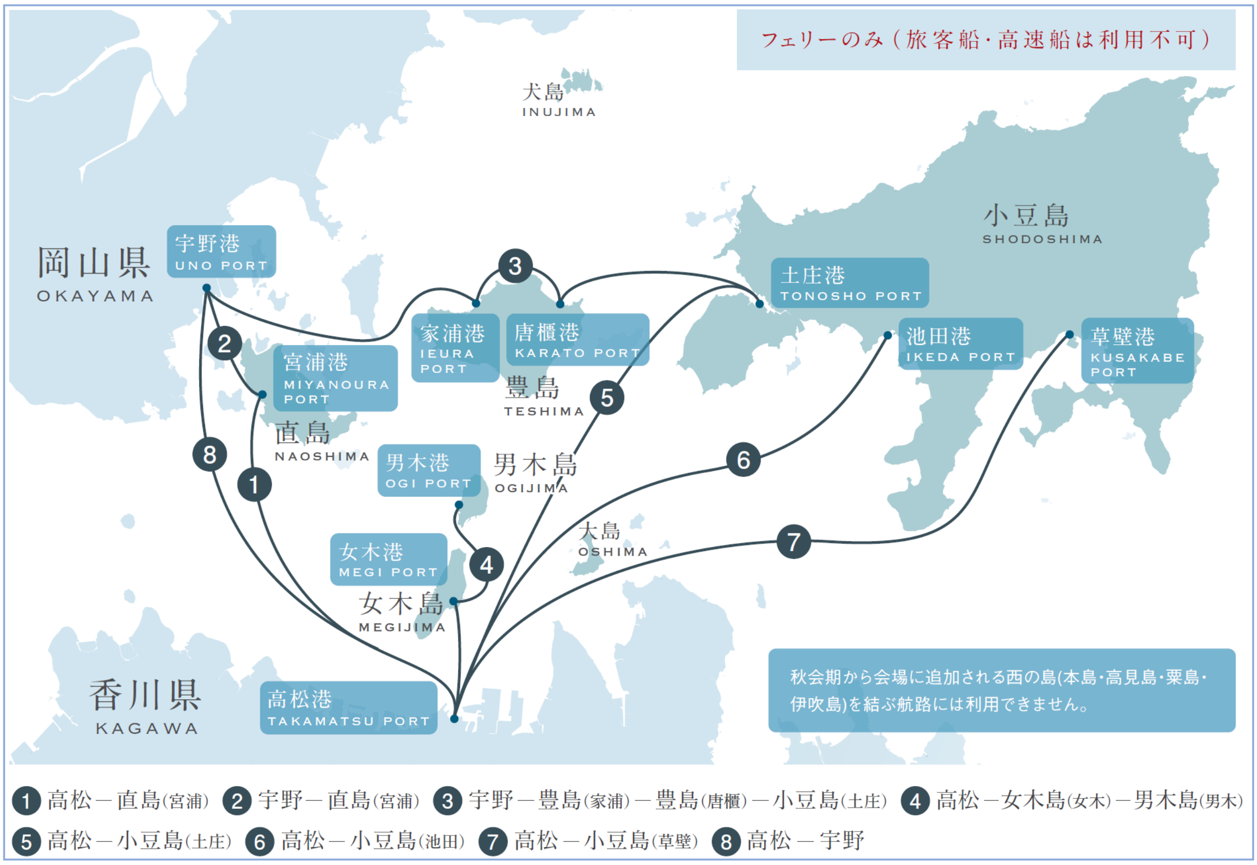
①　瀬戸内国際芸術祭フェリー８航路限定３日間乗り放題乗船券

<table>
<tr><td>

・瀬戸内国際芸術祭 2019 の開催期間中（※）限定で、会場となる 12 島のうち５島を結ぶフェリー・８航路が３日間乗り放題となる共通乗船券。
※開催期間：2019/4/26～5/26，7/19～8/25，9/28～11/4
・フェリーのみ通用、旅客船・高速船には通用しない。
・コンビニ、プレイガイド、旅行会社で引換券を購入、航路事業者の切符売り場や案内所で乗船券と引き換える。または、航路事業者の切符売り場や案内所で直接購入する。
・乗船の際に、乗船券を提示することで乗船できる。
・運賃：大人 2,500 円（前売り＝４月 25 日まで、2,200 円）

</td></tr>
</table>

図－9　３日間乗り放題乗船券の通用する航路



※ 航路事業者：①・②四国汽船、③小豆島豊島フェリー、④雌雄島海運、⑤小豆島フェリー、⑥国際フェリー、⑦内海フェリー、⑧小豆島フェリー・宇高国道フェリー

出典：瀬戸内国際芸術祭 2019ＨＰ

②　松山～宮島クルーズパス

・松山～（呉）～広島の高速船（石崎汽船・瀬戸内海汽船のスーパージェット）と広島～宮島の高速船（瀬戸内シーライン）（いずれも定期船）の乗り継ぎ利用が割引となる片道・乗継割引乗船券。

・運賃（松山～宮島）は大人 7,500 円。松山～広島（6,850 円）と広島～宮島（1,850 円）を個別に購入すると 8,700 円（1,200 円割安）。

・広島港での乗り継ぎ時間が８～17 分程度の便が、午前中は宮島行に対して、夕方は松山行に対して１日に数便設定されるなど、松山～宮島への観光利便性を考慮したダイヤ設定もなされている。

図－10　松山⇔宮島の乗継ダイヤ

松山観光港（発）	呉（発）	広島港（着）	乗り継ぎ	広島港（発）	宮島港（着）
7:00	−	8:08	17分	▲8:25	▲8:57
8:00	8:55	9:17	8分	9:25	9:57
9:00	−	10:08	17分	10:25	10:57
10:00	10:55	11:17	8分	11:25	11:54
13:00	13:55	14:17	8分	14:25	14:57

宮島港　厳島神社など島内散策をお楽しみください

宮島港（発）	広島港（着）	乗り継ぎ	広島港（発）	呉（発）	松山観光港（着）
▲9:00	▲9:22	8分	9:30	9:53	10:47
10:00	10:22	8分	10:30	−	11:38
16:00	16:22	8分	16:30	−	17:38
17:00	17:29	1分	17:30	17:53	18:47

出典：瀬戸内海汽船ＨＰ（「宮島・松山クルーズパス」に掲載の表を２分割して貼り付け）

③　１日フリーパス

・瀬戸内シーラインが運航する５航路の高速船・フェリーともに１日自由に乗船できる周遊乗船券。
・宮島をはじめ、旧海軍兵学校（江田島）や大和ミュージアム（呉港近く）などに点在する観光地周遊の利便性を高めることが目的。
・運賃は大人 3,300 円。広島～宮島（片道 1,850 円）を往復するだけでも割安となる運賃設定。
（広島～江田島（小用）は片道 1,030 円、呉～江田島（小用）は片道 550 円など）

図－11　１日フリーパスの適用航路

出典：瀬戸内海汽船ＨＰ

④ 関門周遊パスポート

・下関と門司を結ぶ旅客船（関門連絡船）と、下関・門司の市街地と桟橋を結ぶ路線バスが１日乗り放題になる企画乗車船券。

・下関と門司港の観光スポットを周遊することを目的に設定。

＜乗り放題区間＞

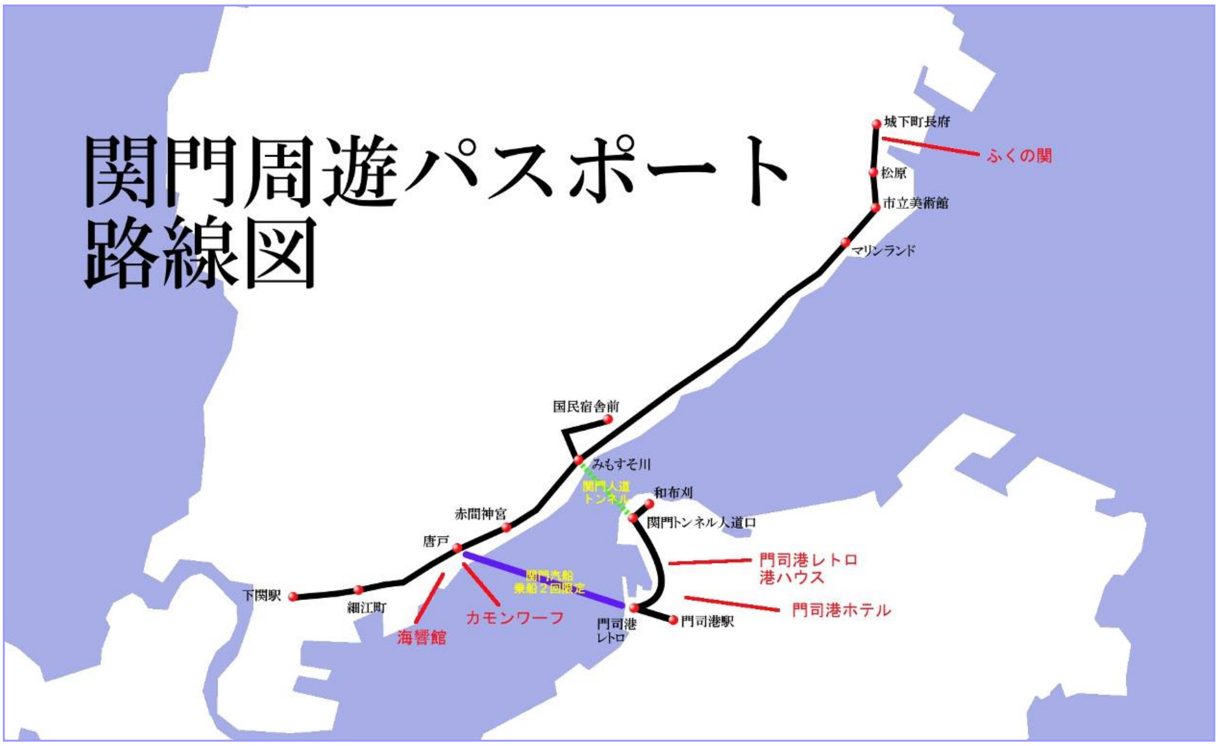
・関門汽船：唐戸桟橋～門司港桟橋（２回まで乗船可）

・サンデン交通バス：下関駅～唐戸～城下町長府

・西鉄バス：門司港駅～門司港桟橋～和布刈

・運賃は大人 1,440 円。たとえば、下関駅～路線バス～関門連絡船～路線バス～和布刈を往復すれば割安となる水準の設定（所定の運賃は往復 1,700 円）。

図－12　関門周遊パスポート路線図



出典：サンデン交通ＨＰ

⑤　絶景領域・萌えっ子フリーきっぷ

・羽幌を中心に路線バスの指定された区間が乗り放題となり、羽幌～焼尻島～天売島のフェリーの運賃が１割引となる企画乗車船券。管内の周遊や長距離利用者の利便性向上が目的。
・留萌の「萌」の字を含めた「萌えっ子フリーきっぷ」という命名とともに、３～４人のキャラクターを設定。キャラクターは５月１日～４月 30 日を１年として、毎年更新。
・平成 21 年度を第１シーズンとして、令和元年５月から第 11 シーズンが始まる。
・当初の発売目標 500 枚に対し、第１シーズンは約 1,000 枚、第 10 シーズは約 1,600 枚発売。
・平成 25 年からは、フェリーと路線バスにキャラクターをあしらったおそろいのラッピングを施している。
・乗り放題区間は図に示すとおり。特急バスなど一部対象外となる便がある。
・運賃は、１日券・大人 2,390 円、２日券・大人 3,290 円。

図－13　フリーきっぷ通用範囲

図－14　船舶・バス車両のラッピングと萌えっ子フリーきっぷの券面（一例）

出典：沿岸バスＨＰ、発売状況は下記ＵＲＬの記事による

https://nlab.itmedia.co.jp/nl/articles/1904/25/news011.html

⑥ 島原半島周遊パス

・ 土日祝日の１日または連続２日間、島原鉄道の運営するフェリー、鉄道、路線バスが乗り放題になる周遊乗車券。

・島原半島～天草の観光の利便性向上のため設定。

＜乗り放題区間＞

・島原鉄道：全線（諫早～島原外港）

・島原鉄道・路線バス：全線

・島鉄フェリー：口之津港（島原半島）～鬼池港（天草）、旅客のみ

・運賃：１day（土日祝日の１日有効）2,000円、２day（土日祝日の連続２日間）3,000円。

たとえば、島原鉄道で諫早～島原外港の片道運賃は1,510円、往復すれば割安となる水準。

・従前の「Shimatetsuフリーパス」をリニューアル（※）し、平成31年３月23日より発売。

※　通用日の拡大（従前は第２・第４日曜のみ→土・日・祝日に拡大）、２dayの追加。

「Shimatetsuフリーパス」の発売開始時期は不詳。

資料：島原鉄道ＨＰ

⑦　よりみちクルーズ

・桜島フェリー（鹿児島市営）において、定期船１日 65 往復のうち、片道１便（鹿児島 11:10 発桜島行）のみ、景勝地などを経由して運航。
・通常の定期航路は所要 15 分のところ、神瀬（かんぜ）灯標・沖小島（おこがしま）や大正溶岩原などの景勝地を巡る特別の航路を 50 分かけてクルージング。
・車での移動や定期航路では「ふだん見ることのできない桜島の顔」を謳い文句として、観光利用の増進を図っている。
・ある旅行サイトの口コミ情報には 10 件の記事が投稿されており、５点満点で平均 4.5 点の評価を得ている。50 分という時間がちょうど良い、乗船して座っているだけで観光が楽しめるなどの内容の投稿が見られる。
・運賃は大人片道 500 円。（通常の定期船は片道 160 円）
・平成 23 年３月 10 日より運航開始。

図－15　よりみちクルーズ広告

出典：鹿児島市ＨＰ、口コミ情報は下記ＵＲＬの記事による

https://4travel.jp/domestic/area/kyushu/kagoshima/kagoshima/kagoshima/norimono/11382319-tips/

⑧　呉湾おさんぽクルーズ

・海上から呉のまちなみやてつのくじら館、大和ミュージアム、造船所等の風景を見ながら呉湾内を周遊する定期旅客船。

・呉～江田島～呉を往復、乗降は呉に限られる。

・瀬戸内シーラインが運航。１日９便、所要時間は 45 分。

・９便のうち２便（12:20 発、14:22 発）は呉観光ボランティアの会によるガイドを実施。

・運賃は大人 500 円。

図－16　呉湾おさんぽクルーズルート図

出典：瀬戸内海汽船ＨＰ

⑨　忍者高速船

・平成 30 年７月より、セントレア（中部国際空港）においてインバウンド誘客を目的とした「サムライ×ＮＩＮＪＡプロジェクト」が始動。

（侍や忍者がテーマとなったのは、中部地方が多くの戦国武将を輩出した地域であること、忍者の誕生した地域（伊賀、甲賀）に近いことなどによる。）

・その一環として、セントレアと伊賀地域を結ぶ交通手段の一翼を担う津エアポートラインが忍者をテーマとした「忍者高速船キャンペーン」を企画・実施。

・船体に忍者をあしらったラッピングを施したり、船内の天井に忍者が潜んでいる様子を描いたり、忍者として潜んでいる職員に声をかければ記念品がもらえるなどの企画を実施。

・津から忍者に関係した観光地の情報提供なども合わせて実施。

図－17　忍者高速船のラッピング

出典：サムライ×ＮＩＮＪＡプロジェクトＨＰ、津エアポートラインＨＰ

⑩　せとうちサイクルーズＰＡＳＳ

- 自転車を航送可能な旅客船やフェリーを活用し、自転車を伴って乗船する旅客（※）に対する運賃を割り引く仕組み。中国旅客船協会が実施主体。
  ※　自転車をそのまま持ち込む旅客が対象で、自転車を輪行袋に収納すると対象外となる。
- 利用者は、事前に「ＰＡＳＳ発行所」にて「せとうちサイクルーズＰＡＳＳ」の発行を受け、乗船時にはＰＡＳＳを提示して乗船する。
- また、協賛施設でＰＡＳＳを提示することにより、割引などの優待を受けることができる。
- ＰＡＳＳの発行手数料は無料。有効期間は希望する日から３日間。
- 対象は、主に中国運輸局管内の 40 余りの事業者が運航する航路のうち、指定された 90 余りの区間。協賛施設は９施設。
- 平成 23 年４月より実施。

図－18　せとうちサイクルーズの対象エリア

出典：せとうちサイクルーズパンフレット

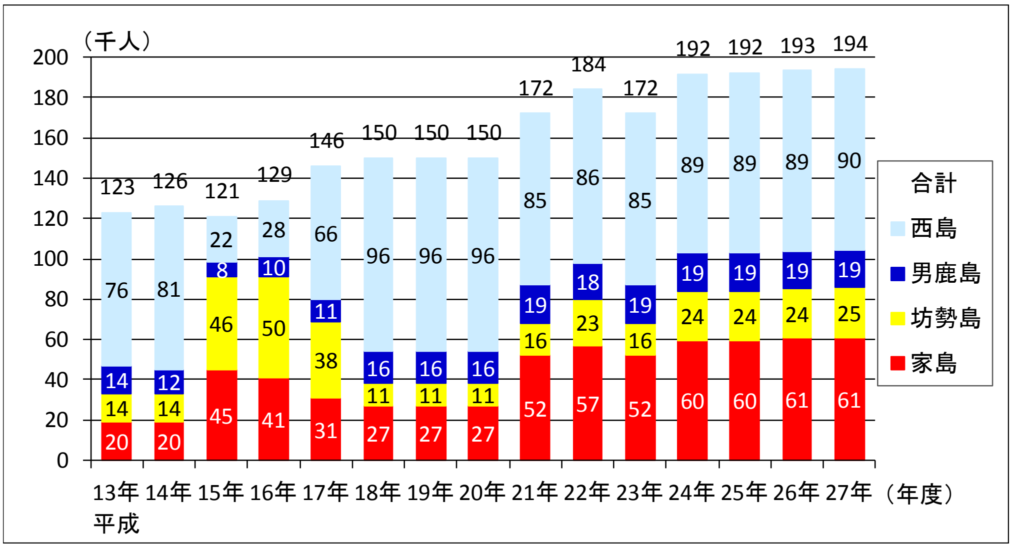
４．家島諸島における観光の動向

(1)　観光客の動向

・家島諸島の入込観光客数の動向をみると、平成 13～16 年は概ね 120～130 千人であったが、その後は増加傾向にあり、平成 24 年には 192 千人となっている。

・平成 24～27 年は 192～194 千人で推移している。

図－19　家島諸島の入込観光客数



資料：姫路市

(2)　観光活性化の取り組み状況

①　姫路市の取り組み

1）姫路市の観光戦略

・姫路市では、平成 29 年３月に「姫路市観光戦略プラン」を策定している。

・この計画では、「観光を通して愛し愛されるまち姫路」を基本テーマとして掲げている。これは、地域資源を観光資源として活用することにより、改めてまちの魅力を見つめ、守り伝え、育てるとともに、姫路を訪れてみたい、もっとこのまちを楽しみたいと、観光客から愛されるまちを目指すという考えによるものである。

・基本テーマを実現するため、「観光客受入環境の充実」「滞在型観光の推進」「インバウンド観光の推進」「ＭＩＣＥの推進」という４つの基本政策が掲げられている。

・この計画において、家島諸島は、海水浴や釣り、ヨット、漁業体験などを楽しめるほか、瀬戸内海の海の幸を存分に味わうことができる滞在型観光地としての人気スポットであるという認識が示され、島の人々とのふれあい体験メニューも充実してきたと記されている。また、今後さらに観光客に向けた情報発信が必要であるとの課題認識が示されている。

2）情報発信

・姫路市の観光情報の発信は、姫路観光コンベンションビューローが主体となって実施している。

・同ビューローでは、「姫路観光ナビ ひめのみち」という観光情報を検索できるシステムをＨＰに掲出している。

・このサイトは、

　・観光スポット検索　・イベント情報　・交通アクセス案内

　・パンフレット（ダウンロード）　　・お役立ち情報

　などのコンテンツで構成されている。

・このうち、観光スポット検索では、

　○ エリア（姫路駅・姫路城周辺、手柄山周辺、家島エリアなど、市内全域を 11 区分）

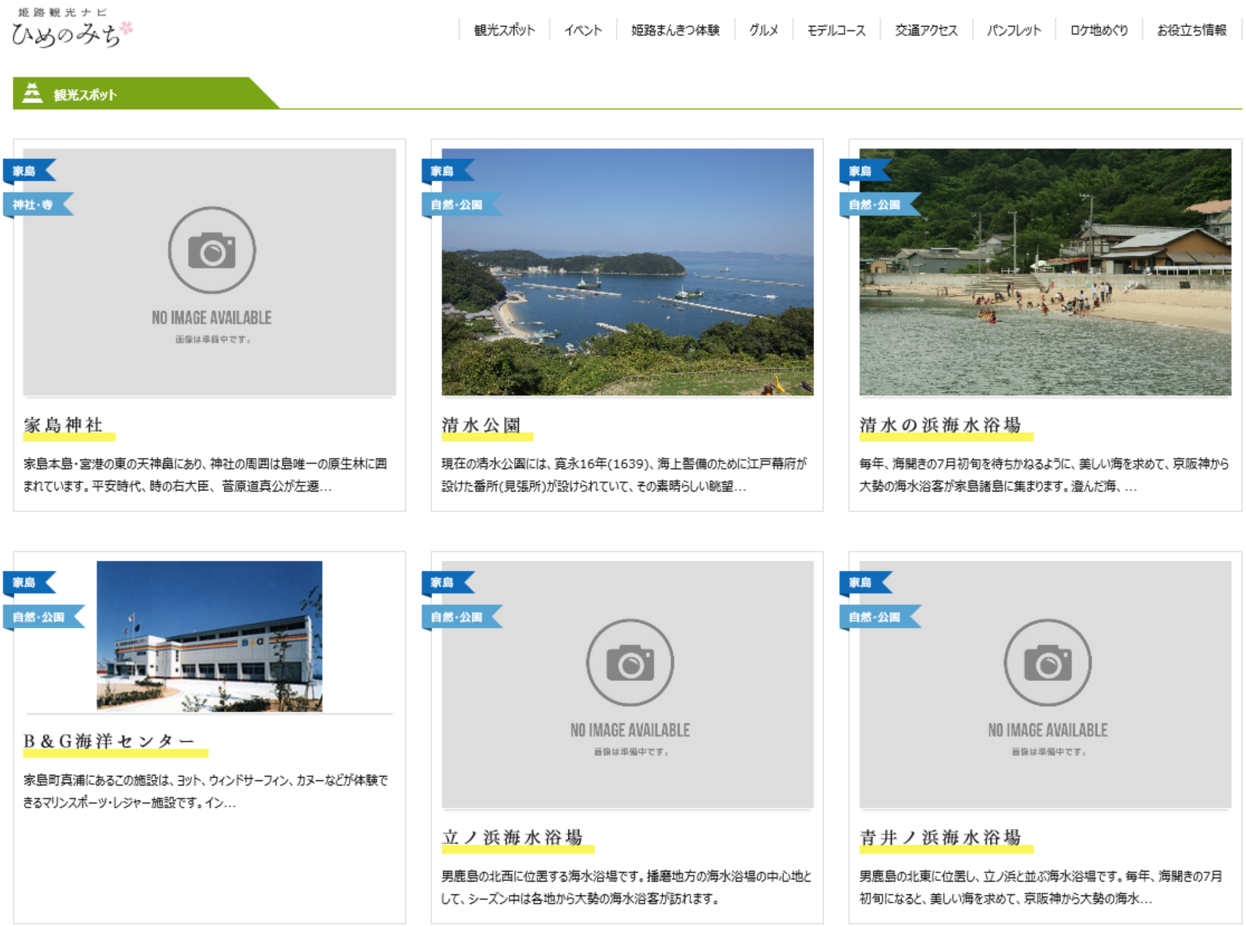
　○ カテゴリー（観光スポット検索、イベント、姫路まんきつ体験、グルメ、モデルコース）

　を指定することにより、条件に該当する観光スポット等が画像と概略説明を伴って一覧表示される。

・さらに、検索結果をクリックすると、個々の観光スポットの詳細が表示される。

・たとえば、「家島エリア」と「観光スポット」をキーワードとして検索すると、次のような結果が表記される。

図－20　「姫路観光ナビひめのみち」による情報提供の例



資料：姫路観光ナビひめのみち（姫路観光コンベンションビューローＨＰ）の検索結果による

② 家島観光事業組合の取り組み

1）家島観光事業組合の設立

・旧家島町は平成 18 年に姫路市と市町村合併したが、合併前には家島観光協会が主体となって家島諸島の観光に取り組んでいた。

・市町村合併に伴い、家島観光協会は解散となり、家島諸島の観光は姫路観光コンベンションビューローが担うことになった。

・しかし、家島観光協会が無くなったことで家島の観光の灯を消してはいけないとの認識のもとで、観光事業の発展によって家島町全体の活性化を図り、海運業・ 砕石業・漁業に続く第四の産業として確立させることを目的として、一般社団法人として家島観光事業組合が設立された。

（出典：家島観光事業組合ＨＰ）

2）家島諸島都市漁村交流推進協議会の設立

＜経　緯＞

・家島観光事業組合では、ホームページの立ち上げによる情報発信をはじめ、家島諸島の観光活性化に積極的に取り組むこととなったが、その運営資金などが十分ではない状況にあった。

・そのため、農林水産省の都市農村共生・対流総合対策交付金事業に応募し、平成25年度に採択をされて、同事業の補助を受けながら観光活性化の取り組みを進めることとなった。

・その際、同事業の補助事業を推進するため、平成25年7月末に「家島諸島都市漁村交流推進協議会」を立ち上げた。

＜組織の概要＞

・家島諸島都市漁村交流推進協議会は、家島観光事業組合、航路事業者、各区会、漁業協同組合、ＮＰＯ団体、兵庫県、姫路市で構成される。

・家島の観光に関連する行政機関や地域の主体が集まって構成された組織であり、家島観光の全般について具体的な取り組みを行う組織である。

・このうち、家島観光事業組合が事業を推進するための中心的役割を担っている。また、協議会の事務局代行を大手旅行会社が担っている。

＜取り組みの概要＞

ｉ）観光商品プログラムの企画・造成

・家島諸島都市漁村交流推進協議会では、家島全域を対象に「観光」として実施可能な事項を250～300くらい抽出。その中から26の観光商品プログラムを作成した。

ｉｉ）ツアーの企画・運営

・これらのプログラムを平成 26 年から「家島しまたび」と称して旅行会社に提供。旅行会社の協力のもと、観光ツアーとして販売している。

・当初（平成 26 年）は、島内でのものづくりツアー、まちあるきツアー、家島諸島のクルーズなどのプログラムが企画された。

・その後も新たなプログラムが企画され、最新の「家島しまたび2018」では、ガイドによる散策コース、造船所におけるガット船見学、坊勢島の散策、漁業体験（底引き網漁）やヨットセイリング体験、漁村出買い体験など体験型のツアーなど、様々なツアーが提供されている。

・造成されたツアーは、基本的に全国の旅行会社に展開する予定であるが、時点では協議会の事務局代行を務める大手旅行会社が、主にその販売を担っている。

・なお、家島への往来については、家島諸島航路の定期旅客船が活用されている。一部、チャーター船やヨット（体験型ツアーのヨット）によるものもある。

・ツアーの内容を紹介するため、家島しまたびの公式サイト「家島しまたび 2018」（平成30年８月１日公開）に掲載されているツアーの概要を以下に示す。

表－4　家島しまたび 2018 プログラムの一覧

【島案内「いえしまガイド」】

名称	概要（ツアーの案内文）	期間	集合場所	所要時間
①ワンダーランドいえしまを電動アシスト自転車で満喫！	家島の魅力を詰め込んだ、家島ビギナーコース。主要産業の「採石」というキーワードをもとに、都会とは違った島暮らしをガイドが案内します。おいしい島ごはんと共に青い空と青い海に包まれた、のんびり、ゆったりとした島の時間を体感してみてください。	通年	真浦港	約 3:30
②ワンダーランドいえしまを電気自動車で満喫！	勾配のある坂道や、細い路地の多い家島。島に暮らすガイドが、海運業の盛んな真浦地区や、島らしい風景の多い、漁師町・宮地区を、電気三輪自動車に乗って、案内します。原生林に囲まれた「家島神社」を見てまわったり、島の人たちの生活に触れたりしてみませんか？	通年	真浦港	約 2:00
③路地裏に誘われる真浦コース	海運業が盛んな真浦は、海にまつわる独特な風景が広がる地区。海運業の背景や由来などを、ガイドがお話しながら案内します。また、島のお店が集中しているのもこのエリア。新鮮な播磨灘で獲れた魚を堪能しましょう。路地を歩いて、家島の普段の暮らしを覗いてみませんか？	通年	真浦港	約 1:30
④原生林と海に囲まれた神社を目指す宮コース	宮地区は、真浦地区とは違った島らしい風景が楽しめる漁師町。波と遊ぶように漁船が停泊する様子は癒しの光景です。また、神聖な原生林の中にある「家島神社」にも参拝します。波音と鳥の鳴き声のハーモニーに、心も解き放たれるはず。	通年	真浦港	約 2:00
⑤漁師の島、ぼうぜじまを歩く 坊勢島散策コース	坊勢島は、島の住人の７割が漁師という島です。古くからの神社や自然が残る坊勢島の暮らしをガイドが案内します。家島とは異なった坊勢島の町並み、風景を楽しみながらぶらぶらと散策します。海を眺めてのんびりとしたい方にもオススメです。	通年	坊勢港	約 2:00
⑥真浦散策と家島の造船所で「ガット船」見学	採石場で採掘された石を全国に運ぶダイナミックな「ガット船」は島の風景を代表するもののひとつ。このプログラムでは、ガット船について学び、現場の方の説明を受けながら、造船所や船内、巨大船の修理などを見学できます。	通年	真浦港	約 2:00

名称	概要（ツアーの案内文）	期間	集合場所	所要時間
⑦「小物づくり」のスペシャリスト！ 山田さんの貝殻ストラップづくり	真浦地区をガイドと散策した後、小物作りのスペシャリスト・山田さんに貝殻ストラップ作りを学びます。使用するのは、もちろん島の貝殻。お子様でも簡単に作ることができます。家島の思い出を形にしてみてください。	通年	真浦港	約 3:00
⑧カヌーで家島の海をお散歩	家島散策は、陸地だけではありません。経験豊富なインストラクターのもと、いえしまコンシェルジュが海を案内します。安定感のある扱いやすいカヌーを使用し、丁寧な指導を受けられるので、初心者でも気軽に参加 OK。家島の海と遊びましょう！	5～10 月	真浦港	約 2:00
⑨いえしまコンシェルジュ中西が“あなた色”に染まります	「家島でオンリーワンの体験がしたい！」。そんな声に、ガイドの中西が応えます。コーディネートやサプライズ演出も大歓迎！ 大変喜んでいただいた事例には“家島でプロポーズ”というものもあります。あなたの要望を、どんどんぶつけてくださいね。	通年	真浦港	約 6:00 応希望
⑩暗闇の中をガイドと共に歩くナイトハイク	都会では体験出来ない、自然の鼓動を感じるナイトハイクです。波音だけが響く暗闇の中で歩くのも、また一興。季節によっては、ホタルが輝く神秘的な光景も見られます。もちろん、地元を知り尽くしたガイドと一緒なので安心です。	通年	清水の浜	約 1:30
⑪「昭和レトロ」家島まち並みフォト散歩 島の住人がとっておきスポットを紹介	レトロな町並みが懐かしい真浦地区には、カメラで切り取りたい風景がたくさん！ 島で一番にぎやかなこのエリアに残る昭和の香りと生活文化に、思わずシャッターを切ってしまうはず。もしかすると、島猫にも出会えるかもしれません。 別途オプションの電動三輪自動車で島の裏側への案内もできます。	日曜日	真浦港	約 2:00
⑫チャーター船で巡る家島諸島 「四十四（しあわせ）の島」クルーズ	家島諸島は､小さなものも含めると四十四(しあわせ）の島からできています。海上タクシーで小さな島々の間をクルーズする島巡りで、家島の魅力をもっと感じてみませんか？島・海・空が織りなすパノラマの世界で、新しい発見があるはずです。	通年	真浦港 宮港	約 2:00
⑬チャーター船で巡る工場萌え! 瀬戸内ムーンライトクルージング	漆黒の海から見る姫路の工業地帯。その幻想的な光を求めて、瀬戸内の島々の間をクルージング。遮るものがない暗闇の海上では、自然の大きさ、光の温かさが際立ちます。海上からしか見えない夜景は、心に残る景色になるはずです。	通年	真浦港 宮港	約 2:00

【いえしま食の学校】

名称	概要（ツアーの案内文）	期間	集合場所	所要時間
⑭目の前で〆た新鮮な魚を「お食事処かわさき」でいただく本格島ごはん	家島といえば、やっぱり新鮮な魚！ 島人はみんな、活きた魚をさばいて食べています。みなさんもぜひ、真浦地区の魚屋のいけすから上げた魚を刺身にして、本格島ごはんをどうぞ。調理するのは、魚にこだわる、家島の元魚屋です。	通年	真浦港	約 2:00
⑮家島散策と料理名人「いえしま荘」小島明美さんに教わる料理体験教室	島散策のあとは、家島で 50 年以上料理を提供している「いえしま荘」の小島さんに、家庭でもできる料理を教わり、味わいます。家島の魚を知り尽くしたプロが、旬の魚の一番美味しい料理方法をあなたに伝授。島の滋味を深く感じられる体験です。	通年	真浦港	約 3:30
⑯創作料理の達人「味恋Ⅱ」熊野二見さんに料理のコツを教わる料理教室とゆっくりまち歩き	家島の新鮮な魚は、一手間加えることでさらに美味しさが広がります。先生は、創作料理のお店「味恋Ⅱ（みれんつー）」の熊野さん。その実力は、漁師の奥さんも料理のコツを聞きにくるほど！ 島ならではの創作料理を教わり、美味しくいただきましょう。もちろんガイドが案内する家島散策もお楽しみください。	通年	真浦港	約 3:00
⑰手ぶらでも OK！！海上に浮かぶ釣堀り体験	季節を問わず、オールシーズン気軽に釣りを体験できます。釣竿、餌は用意してあるので、手ぶらで参加しても大丈夫。カンパチ、タイ、ブリなど四季折々の魚が釣れるかも!?釣れなくても、魚のおみやげ付き。	通年 除木曜	清水の浜	約 2:00
⑱気分は瀬戸内の漁師！家島底引き網体験 de 島ごはん	底引き網漁とは、海底に網を沈めて、船を走らせ網を引き、魚を獲る漁法。熟練の漁師の合図で網を引き揚げると、ずっしりとした重い手ごたえが。「どんな魚が獲れたのかな？」というワクワク感も、この体験ならではの楽しみです。漁業体験のあとは獲れた魚で島ごはんをどうぞ！	通年	真浦港	約 3:00
⑲家島の漁師が語る！ 中村さんちの定置網見学	定置網とは、海に網を設置して、回遊してくる魚を引き込む漁法のこと。漁船から家島の漁師と一緒に魚を引き揚げます。獲れた魚は宿泊施設でいただくことも可能（別途有料）。自分で獲った魚を食べられるのは、まさに家島旅の醍醐味です。	通年	男鹿島	2:00～ 3:00
⑳男鹿島で「生きた魚をつかみ獲りっ！」中村さんちの地引網体験	20～50 名の大勢が力を出し合って、いっせいに網を引く地引網体験です。浜にあがった魚を手づかみで捕まえる楽しさも大きな魅力。大人も子供もみんなが楽しめるプログラムです。獲れた魚は宿泊施設でいただくことも可能（別途有料）。	5～10 月	男鹿島	1:00～ 2:00

名称	概要（ツアーの案内文）	期間	集合場所	所要時間
(21) 森さんちの漁師体験「カゴ網体験見学コース」	海にカゴ網を設置して、回遊してくる魚を獲る漁法。カゴを仕掛けた場所まで行き、漁船からカゴを引き揚げます。獲れたてピチピチの魚を、実際に触ることも可能。お子様も一緒になって、漁師の仕事を楽しく体験できるプログラムです。	4～10 月	男鹿島	約 2:00
(22) 森さんちの漁師体験「観光・底引き網体験コース」	海底に沈めた網を引っぱり、引き揚げる光景を見学します。四季折々の魚が獲れる喜びと驚きを体感してみてください。季節によっては、ピチピチ跳ねるエビをそのまま食べられることも！獲れた魚はお持ち帰りすることも可能です。	5～10 月	男鹿島	約 2:00

図－21　「しまたび」メニューの一例

出典：家島観光事業組合ＨＰ（スクリーンショットで保存）

iii）情報発信

・家島諸島の情報発信の中心は、図－21 のとおり家島観光事業組合のＨＰである。

・インターネットの検索画面において、「家島　観光」あるいは「家島」というキーワードで検索すると、家島観光事業組合のＨＰが検索結果の最初に表示される。

・家島観光事業組合のＨＰでは、家島の最新情報、イベントの案内、土産物の案内、地図（観光マップ）などが掲出され、合わせて、「しまたび」のメニューも検索することができる。

・また、旅行ガイドを専門とする事業者による家島の旅行案内なども検索結果の上位に表示される。

図－22　家島観光事業組合のＨＰ（トップページ）

③　坊勢漁業協同組合

1）漁獲物の販売

＜取り組み概要＞

・坊勢漁業協同組合では、直売所やインターネットを通じて漁獲物を販売し、坊勢ブランドの魚を訴求している。

・姫路市白浜町に「坊勢漁業協同組合“とれとれ”直販所」と称して、坊勢漁港で水揚げされた新鮮な魚介類を販売する直販所を設置。

・インターネット上では「とれとれインターネットショップ」と称する通信販売を実施。

＜情報発信＞

・坊勢漁業協同組合のＨＰに「海の幸情報」としてこれらの情報を掲出。

・（一社）全日本漁港建設協会が運営するサイト「漁 GYOSON 村情報発信 from fishing village」にも登録して、全国展開しているサイトから坊勢漁業協同組合のＨＰにリンクできるようにしている。

2）漁業体験

・漁業を体験・見学することを目的として、平成 31 年３月に漁業見学船「第８ふじなみ」を新造。

・漁業見学の際には、水揚げしたばかりの魚をその場で試食するサービスも実施している。

・漁業見学の後には、漁協が運営する飲食施設「姫路とれとれ市場」における海鮮ＢＢＱや家島自然体験センターでのキャンプなど、オーダーメイドのツアーを実施することも可能。

図－23　第８ふじなみによる漁業見学のパンフレット

④　県立家島高等学校

1）家島えびカレーの開発・販売

＜取り組み概要＞

・家島高等学校の生徒や漁協などが共同で、家島に伝わる家庭料理を「家島えびカレー」として商品化。地元産の小エビと播磨地域で獲れた野菜を用いている。

・平成24年に家島高等学校の生徒がカレーの腕前を競う民放テレビ番組に出演、上位に入賞したことを契機に、家島高等学校が商品化を企画。趣旨に賛同した地域の各種団体と「家島えびカレー推進協議会」を結成。坊勢漁業協同組合がカレー用の小エビを水揚げするなど関係団体が協力した。

・家島高等学校の生徒が改良を重ねたうえ、レシピをカレー製造会社に提供。商品化が実現した。

・１パック200グラム入りで450円、家島港ふれあいプラザで販売。

＜情報発信＞

・家島高等学校ＨＰの「新聞記事」に掲載された新聞記事の写しが掲出されている。

・家島観光事業組合ＨＰの島情報に掲出されている。

⑤　いえしまコンシェルジュ

＜取り組み概要＞

・大阪出身の中西和也氏が家島の魅力に魅せられて家島に居住し、家島の観光ガイドを始めたのを契機に結成された家島の観光ガイドの集まり。

・いえしまコンシェルジェのＨＰによると、中西氏以外に７名が活動をしている。

・「家島しまたび」において、いえしまコンシェルジェが案内することをテーマにしたツアーが実施されるなど、「家島しまたび」のプロジェクトにも深く関わっている。

＜情報発信＞

・いえしまコンシェルジェのＨＰにおいて、設立に至る経緯や取り組みの内容、メンバーの紹介などの情報が発信されている。

・家島観光事業組合のＨＰにおいても紹介されている。

(3)　効果的な情報発信を実施している他の事例

ここでは、観光地において効果的な情報発信を実施し、成果をあげている事例として、広島県尾道市生口島の耕三寺の取り組みがある。耕三寺では、尾道市がＳＮＳなどを活用した取り組みを行い、インバウンド観光客の増加率が日本一（2017 年から 2018 年の伸び率）となった。

その概要を以下に記す。

表ー5　生口島耕三寺における情報発信の取り組み事例

＜取り組みの概要＞ ・耕三寺は生口島にある寺で、紅葉の名所である。数年前までは、訪れる外国人観光客はわずかであった。 ・尾道市が関連する自治体と連携して、しまなみ海道（本州四国連絡道路尾道今治ルート）を活用したサイクリングコースを整備し「絶景が楽しめるサイクリングコース」としてＰＲ。 ・市内５か所におよそ 900 台のレンタサイクルを設置。車道の端に「ブルーライン」をひき、島の観光スポットを巡るおすすめのルートを設定。 ・ネットを使った情報発信に注力。 １）中国語やフランス語など５か国語に対応したＰＲ動画をユーチューブに公開。 ２）台湾から著名なブロガーを招き、地元の人しか知らないような尾道のスポットを発信してもらう。 という取り組みを実施。 ・また、ＣＮＮテレビ（米国）が取材し、世界で最も美しいサイクリングロード７選に選定された。 ＜効　果＞ ・レンタサイクルを利用した外国人は４年間で３倍増。 ・耕三寺のみならず、生口島の隅々まで足を運ぶ人が増加。 ・サイクリングのまちとしてＰＲしてきたことにより、ブランド力が高まったことが最大の要因と考えられる（尾道市の見解）。

資料：ＮＨＫニュースおはよう日本・「おはＢｉｚ」平成 30 年 11 月 21 日放送（ＮＨＫ・ＨＰより）

５．共通乗船サービスに係る社会実験の実施

(1)　目　的

姫路～家島航路を利用する観光客の利便性向上を図るため、同区間を運航する航路事業者２社の全ての便に乗船可能とする「共通乗船サービス」について社会実験を実施し、利便性に関する評価を行うとともに、運営に関する課題等を検証した。

(2)　実施期間

令和元年 10 月～12 月の３ヶ月間。

(3)　対　象

株式会社ＪＴＢが取り扱う企画旅行商品「しまたび」の利用者で、定期船を利用する人を対象とした。

(4)　実施方法

①　本検討委員会事務局が共通乗船券を作成し、株式会社ＪＴＢを通じて「しまたび」の利用者に販売した。

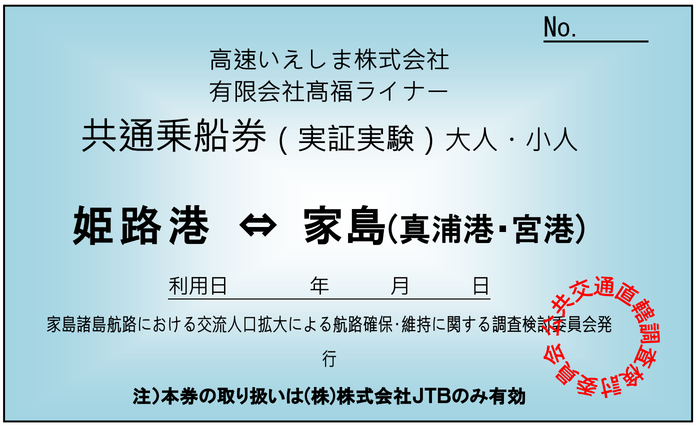
②　旅客船事業者は、共通乗船券の利用者から共通乗船券を回収し、株式会社ＪＴＢとの間で運賃を精算した。

③　社会実験の評価のため、事務局から株式会社ＪＴＢを通じて利用者にアンケート調査票を配布した。

(5)　周知方法

社会実験に関する情報を家島観光事業組合および株式会社ＪＴＢのホームページに掲載した。

図－24　共通乗船券



６．アンケート調査の実施

6.1　概　要

交流人口の拡大に向けた家島諸島の観光活性化方策を検討する上での参考とするため、次の３系列のアンケート調査を実施した。

①　家島諸島の魅力度調査（その１：家島の飲食店・宿泊施設を利用した観光客を対象）

②　家島諸島の魅力度調査（その２：社会実験の共通乗船サービスを利用した「家島しまたび」のツアー（以下、しまたびと記す）の参加者を対象）

③　家島諸島の観光に関する意識調査（家島を訪れたことのない観光客を対象）

なお、家島諸島の魅力度調査は、上記のとおり家島の飲食店などを訪れた観光客を対象とした調査と、しまたびの参加者を対象とした調査の２回に分けて実施した。その際、後者は共通乗船サービスに関する社会実験に合わせて実施しており、共通乗船券に関する質問項目などが追加されるなど、調査項目の一部がその１と異なる。このため、これらを区分して集計・分析を行っている。

6.2～6.4 にこれらの調査結果を示す。

6.2　家島諸島の魅力度調査（その１）

(1)　調査の概要

①　調査対象

家島諸島を訪れた観光客のうち、家島の飲食店や宿泊施設を利用した人を調査対象とした。

② 調査票の配布・回収方法

家島観光事業組合および同事業組合に加盟する飲食店や宿泊施設のご協力のもと、飲食店や宿泊施設を利用した観光客に対し、アンケート調査票を手渡し配付していただいた。

アンケート調査票とともに切手を貼付した返信封筒を配付し、アンケート調査票を郵送にて回収した。

③　調査項目

ａ）個人属性（性別・年齢、居住地、家島への来訪回数、同行者数・その内容など）

ｂ）家島観光について（動機、立ち寄り先、アクセス交通手段など

ｃ）家島観光の評価（期待していたこと、実際に行ってみた評価など）

アンケート調査票を巻末の資料編に示す。

④　実施時期

令和元年 10 月 12 日から順次調査票を配付した。

⑤　調査票の回収状況

返信期限とした令和元年 11 月 30 日までに 79 通の有効回答を得た。（81 通の返信があり、２通は白紙であった。）

(2) 回答者の属性

① 性別・年齢階層（問 13(1)）

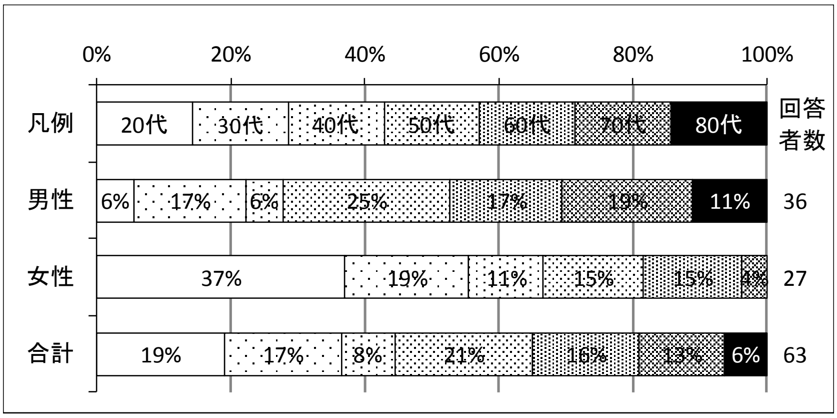
・調査では、20 代～80 代の男女、合わせて 79 人から有効回答を得た。

・回答者の年齢構成は図－25 に示すとおりである。

表－6 性別・年齢階層別回答者数

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答者数	無回答	合計
男性	2	6	2	9	6	7	4	36	2	38
女性	10	5	3	4	4	1	0	27	6	33
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	8	8
合計	12	11	5	13	10	8	4	63	16	79

図－25 回答者の性別・年齢構成比

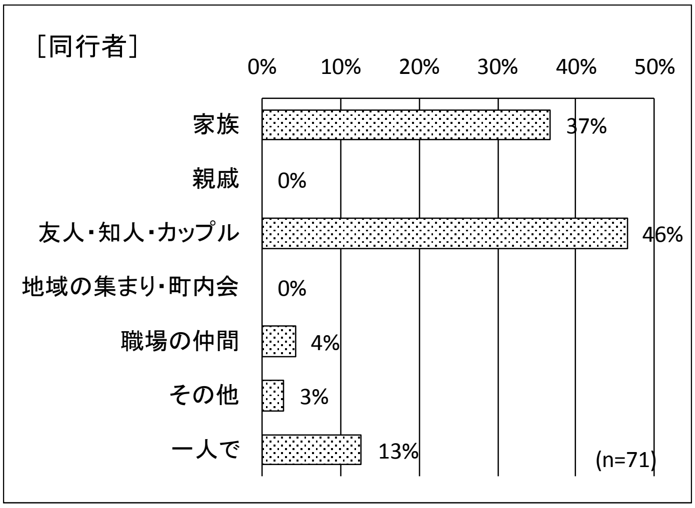


② グループ構成（問 13(4)）

・同行者は友人・知人・カップル（46%）や家族（37%）が主であった。

・その他は、同窓会（２サンプル）である。

図－26 同行者の構成



③　居住地分布（問 13(2)）

・回答者の 54％は兵庫県内の居住者であった。

・また、近畿の居住者が 38％であり、兵庫県と合わせて 92％が近畿からの来訪者である。

表－7　居住地別回答者数

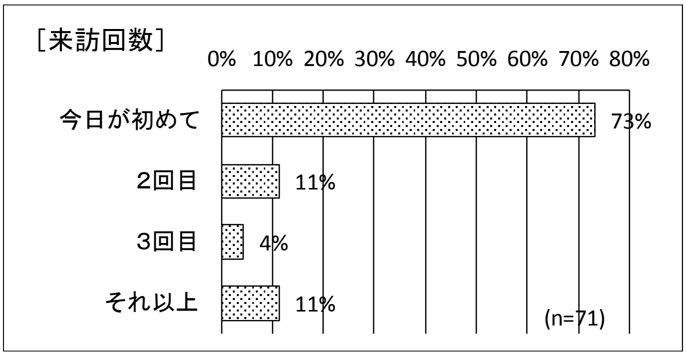
居住地		回答者数	構成比	小計	構成比
兵庫県内	姫路市	11	15%		
	神戸市	16	23%		
	西宮市	1	1%		
	三田市	1	1%		
	加古川市	4	6%		
	赤穂市	3	4%		
	上郡町	1	1%		
	不明	1	1%	38	54%
近畿	京都府	10	14%		
	大阪府	14	20%		
	奈良県	3	4%	27	38%
近畿以外	埼玉県	1	1%		
	東京都	1	1%		
	香川県	1	1%		
	徳島県	2	3%		
	台湾	1	1%	6	8%
回答者数		71	100%		
無回答		8			
合計		79			

④　家島への来訪頻度（問 13(3)）

・回答者の 73％が「今日が初めて」と回答した。

・４回以上との回答は 11％（８サンプル）で、最高は 15 回である。

図－27　家島諸島への来訪回数



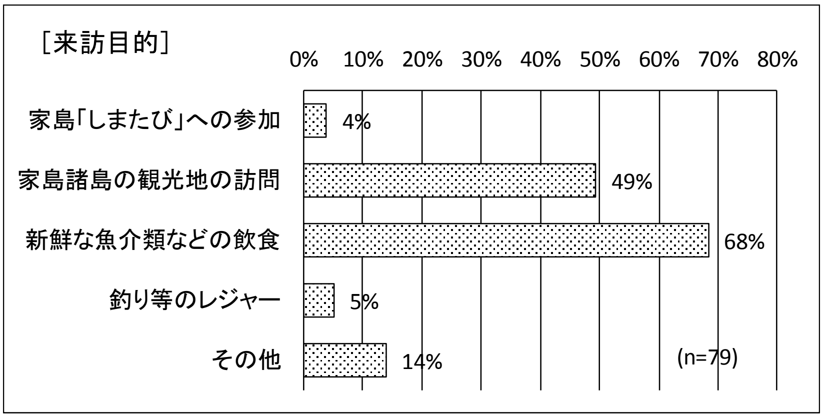
(3)　今回の家島訪問について

①　来訪目的（問１）

・来訪目的は、新鮮な魚介類などの飲食が 38%で最も多く、家島諸島の観光地の訪問が 49%で次に多かった。

・「しまたび」への参加は４％（３サンプル）、釣りなどのレジャーは５％（４サンプル）に留まった。

図－28　家島諸島への来訪目的



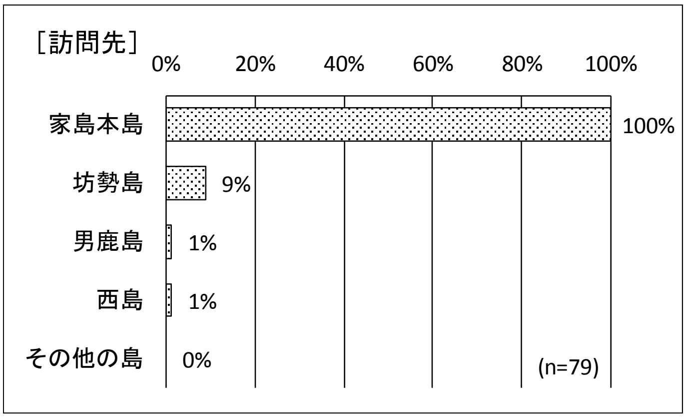
注：複数回答につき、パーセンテージの合計は 100%を超える。

②　訪問先（問２）

・訪問先は、家島本島で調査票を配付したため、全員が家島本島に回答した。

・家島本島以外では、坊勢島が９％（７サンプル）、男鹿島と西島は１％（１サンプル）であった。

図－29　訪問した場所（島）



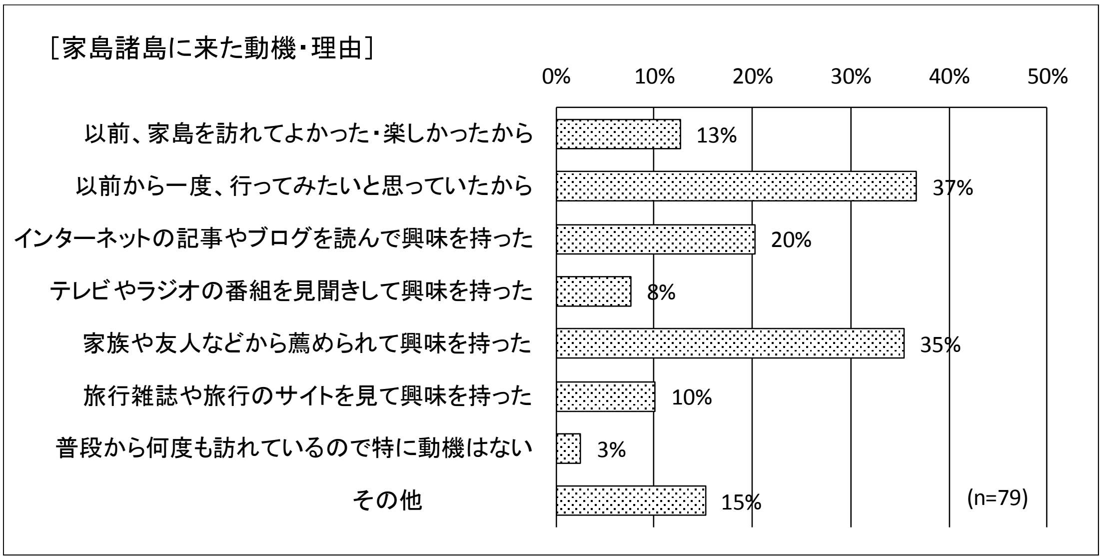
注：複数回答につき、パーセンテージの合計は 100%を超える。

③　家島諸島を訪れた動機（問３）

・家島諸島を訪れた動機や理由を尋ねたところ、以前から一度行ってみたいと思っていたという回答が 37％で最も多く、家族や友人などの薦めが 35％で次に多かった。

・インターネットの記事やブログが動機となった人は 20％、それ以外の項目は３～15％であった。

図－30　家島諸島を訪れた動機や理由

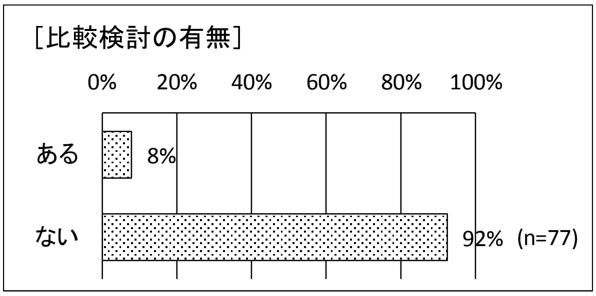


④　比較検討した場所の有無（問４）

・回答者の 92％は今回の訪問に際して、家島諸島以外の候補地を検討していなかった。

・比較検討したのは８％（６サンプル）であり、その具体的な内容は次に示すとおりである。

図－31　比較検討した場所の有無と検討した観光地



具体的に検討した観光地等
小豆島
直島
瀬戸内芸術祭(犬島)
いろいろな島
神鍋高原パラグライダー

(無回答:1サンプル)

⑤　事前の情報収集（問５）

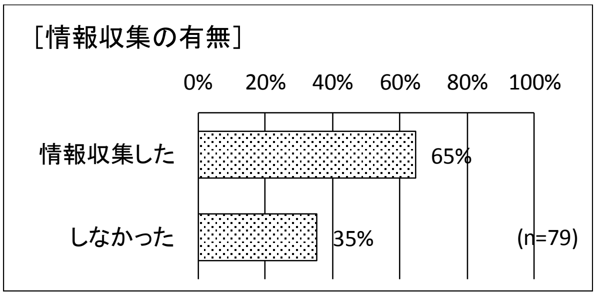
・回答者の 65%は事前に情報を収集していた。（図－32）

・役に立った情報として、家島への交通手段（73%）や鉄道・バス・船の時間（57%）、旅館や飲食店の場所や料金（57%）、移動にかかる費用（51%）などを挙げた人が多い。（図－33）

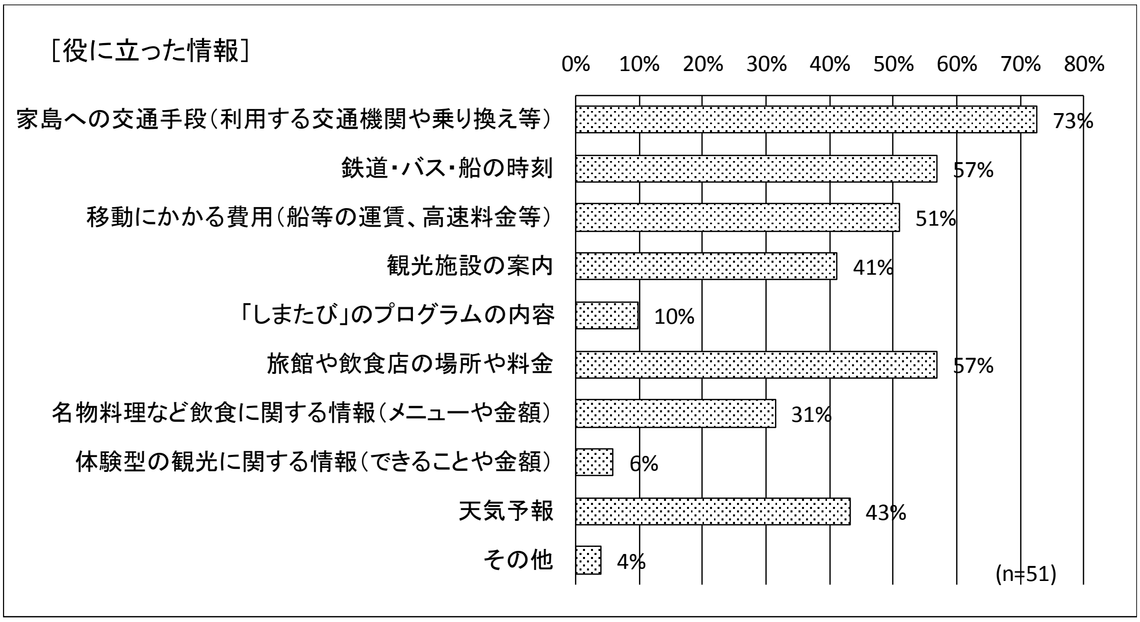
・一方で、手に入りにくかった情報は、名物料理など飲食に関する情報（35%）、旅館や飲食店の場所や料金（33%）の順に多い。（図－34）

・旅館や飲食店に関する情報は、役に立ったとする割合が高い一方、手に入れにくかったとの回答も多く、必要な情報が得にくい状況になっていることが示唆される。

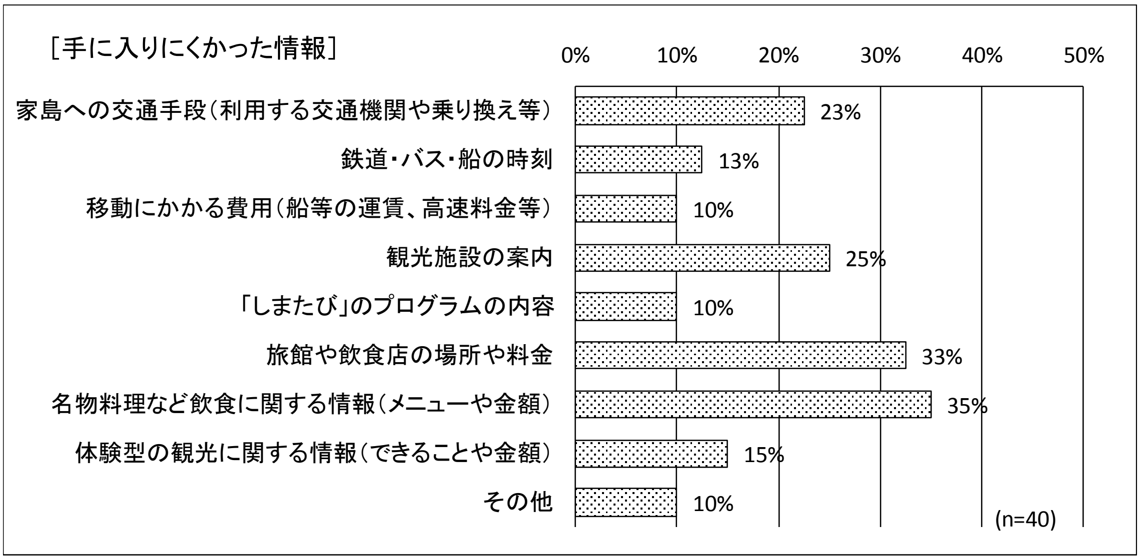
図－32　情報収集の有無



図－33　役に立った情報



図－34　手に入りにくかった情報

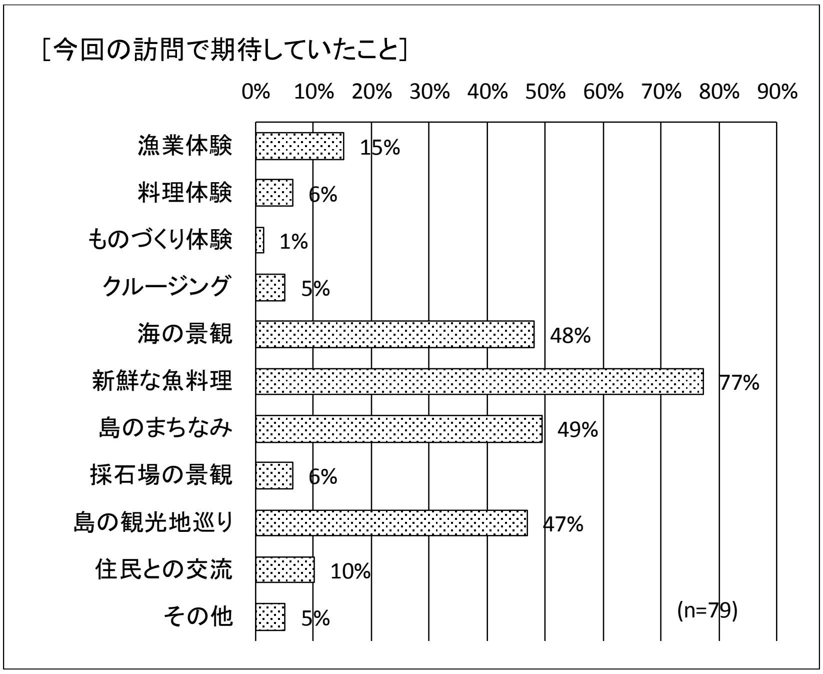


⑥　家島訪問への期待（問６）

・今回の家島訪問で期待していたこととして、新鮮な魚料理（77%）が突出して多く、島のまちなみ（49%）や海の景観（48%）、島の観光地巡り（47%）がそれに次いだ。

・観光地巡りやまちなみ・景観という要素より、新鮮な魚という「食」に対する期待が大きいことが読み取れる。

図－35　今回の訪問で期待していたこと



⑦　今回の訪問に対する評価（問７）

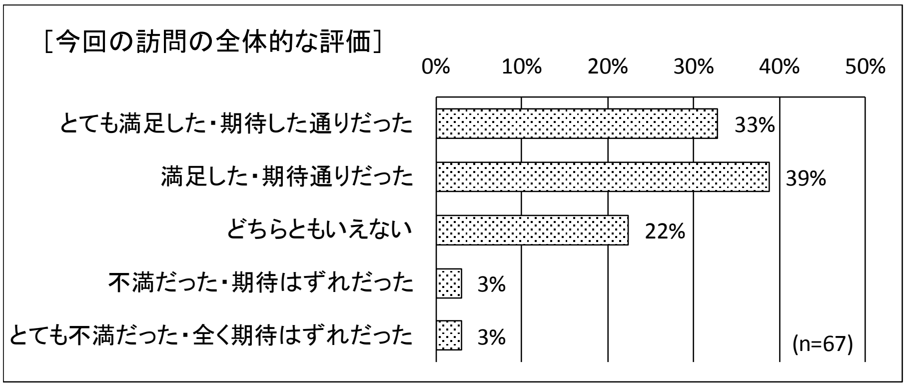
・今回の家島訪問に対し、とても満足した（33%）と満足した（39%）を合わせ、72%が満足したと評価した。

・不満だったととても不満だった（いずれも３%・２サンプル）と評価した回答者はわずかであった。

・満足と評価した理由には、「のどか」「島の人が気さく、優しい」「静かで観光地化されていない雰囲気」などの記述がみられるほか、新鮮な魚に対する評価も高い。

・一方、不満と評価した理由には、わかりにくさや情報不足を指摘する意見が散見される。

図－36　家島を訪問した全体的な評価



表－8　評価の理由（自由記述）

評価	理由
1	のどかですごく気に入りました。島の人たちが気さくで楽しかったです。
1	気楽に来れる島だから
1	お魚がとてもおいしかったです。
2	旅客船で車をのせて一緒に家島に持ってこれたら良いと思いました。
2	カヤックが楽しかった！
2	アクセスが良く島の人たちが優しい
2	新鮮な魚を食べることができたから
3	静かで観光地化されていない雰囲気をゆっくりと楽しませていただきました。 採石場は異様に見えた。島のままの方が魅力的。 魚屋さんでお魚を飼ってその場で食べられることを楽しみにしていましたが、どうしたらよかったのかしら。
3	姫路港で往復の乗船券を買ったが、帰りの便の件が会社が違ったので払い戻しに手間取った。共通乗船券にして欲しい。
3	きれいな景色に満足したが、お土産を購入するところがなく不満もあった。
4	観光地が少なすぎ。場所がわかりにくい。表示すべき。
5	宮港で下船したため、レンタサイクルや電動自転車の案内所などがなかった。 日曜日なので店が開いてなかった。ネット、ガイドなどに掲載して欲しい。予定がくるった。
5	伝統的なまち並みがない。

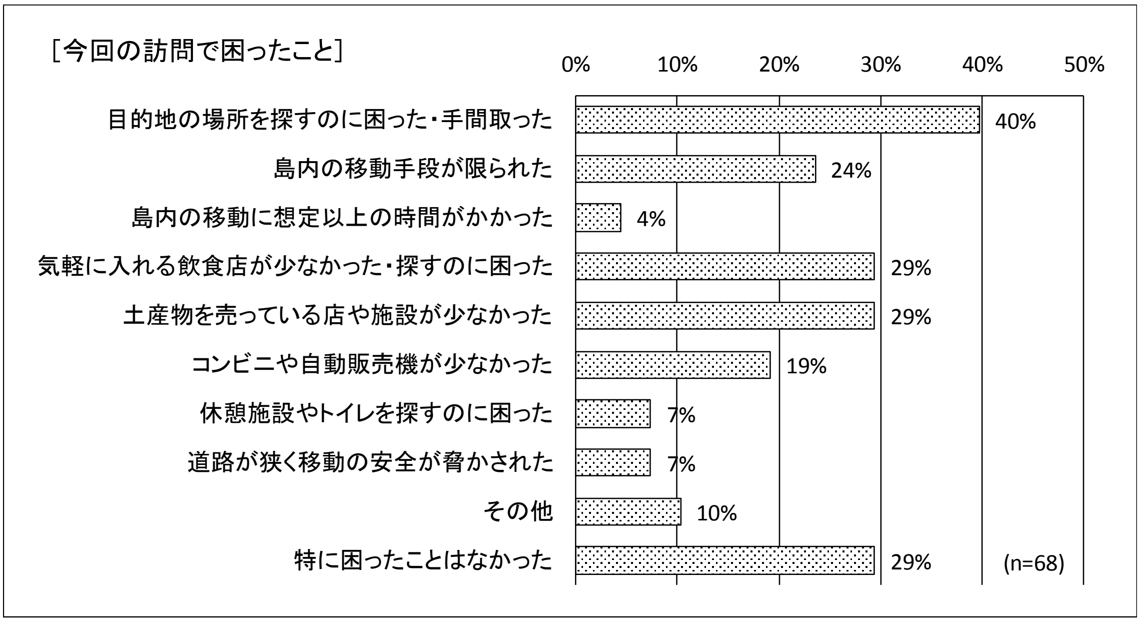
評価：1. とても満足した・期待した通りだった　2. 満足した・期待通りだった
3. どちらともいえない　4. 不満だった・期待はずれだった
5. とても不満だった・期待はずれだった

⑧　家島を訪問して困ったこと（問８）

・家島を訪問して困ったことを訪ねたところ、特に困ったことはなかったという回答は 29％であった。

・一方、目的地の場所を探すのに困ったという回答が 40％見られるほか、土産物を売っている店や施設が少なかった（29％）、気軽に入れる飲食店が少なかった・探すのに困った（29％）、島内の移動手段が限られた（24％）などの回答が多かった。

図－37　今回の家島訪問で困ったこと



⑨　家島での消費額（問９）

・家島での消費額を集計したところ、支払のない人も含めた全体平均で、飲食が１人当たり 3,500 円余り、宿泊が 4,100 円余りなどの結果が得られた。

・また、支払いをした人に限った平均では、飲食が 3,800 円余り、宿泊が 13,000 円余り、土産物が概ね 1,200 円余りなどとなった。

表－9　今回の家島訪問での消費額

	支出総額（円）	来訪者数（人）	平均支払額（グロス）（円／人）	支出者数（人）	平均支払額（ネット）（円／人）
飲食	796,300	224	3,555	205	3,884
土産物等の購入	52,000	224	232	42	1,238
宿泊	937,000	224	4,183	68	13,779

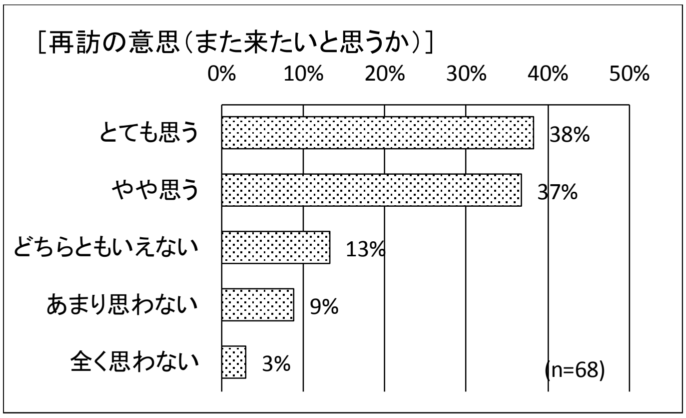
注：支出額は、同行者を含むグループ全体の支出額。来訪者数とは、各サンプルの同行者の総数。支出者数とは、各項目に１円以上支出したサンプルの同行者の総数。

⑩　再訪意向（問 10）

・家島にまた来てみたいかと尋ねたところ、38%がとてもそう思う、37%がやや思うと回答し、合わせて 75%が再訪の意向を示した。

・一方で、あまり思わないは９％、全く思わないは３％であった。

図－38　家島への再訪意向



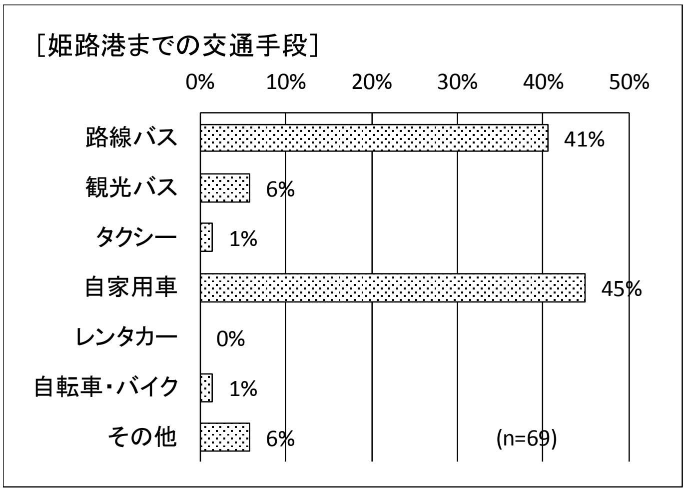
(4) 交通手段について

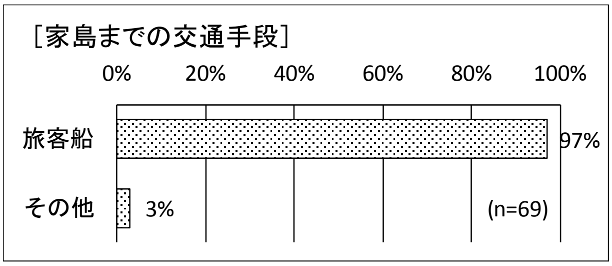
① 利用交通手段（問 11）

・姫路港までの利用交通手段は自家用車が 45%、路線バスが 41%であった。

・また、家島までの交通手段は 97%が旅客船で、その他は３％（２サンプル）であった。その他の２サンプルは、いずれも水上バイクとの回答であった。

図－39 利用交通手段



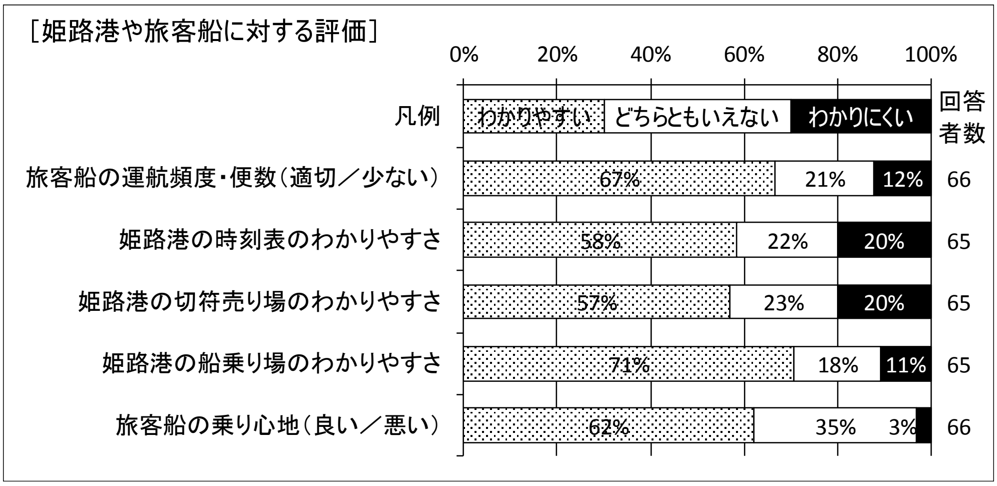


② 姫路港や旅客船に対する評価（問 12）

・姫路港や旅客船に関するわかりやすさ等を尋ねたところ、図の各項目について 57～67%がわかりやすい（または、適切である、良い）と答えた。

・一方で、姫路港の時刻表や切符売り場について、わかりにくいとの回答がそれぞれ 20%見られた。

図－40 姫路港や旅客船に対する評価



注：旅客船の運行頻度・便数は、「適切である／どちらともいえない／少ない」の三者択一、
旅客船の乗り心地は、「良い／どちらともいえない／悪い」の三者択一、
それ以外は図の凡例のとおり。

・なお、姫路港や旅客船の評価に関し、調査票の回答欄に余白があったためか、複数の自由意見の記載があった。その内容を表－10 に示す。

・肯定的な意見として、高速でよかった、快適だった、楽しかったなどの記載が見られる。

・一方で、運賃が高いという指摘が複数見られるほか、乗船券の購入や姫路港の乗り場に関するわかりにくさを指摘する意見もあった。

表－10　姫路港や旅客船に関する意見

区分	意見
肯定的な意見	昔に比べ快適、時間短縮。最高でした。
	高速で思ったより早く到着できた
	高速でよかった。
	スピードが速くなり快適
	狭すぎず、広すぎずで良かったです。
	初体験で楽しかった。
	そこまで気分悪くならなかった。
	船が思ったより小さかった。思ったより揺れず、酔わなくて安心した。
問題点の指摘や改善を求める意見	旅客船は観光目的で乗る場合には楽しい時間が過ごせました。 港に関しては、もう少し何かお店だったり、アトラクションだったりがあればよいと思います。
	姫路港の乗船切符販売機で予定と違う切符を買ってしまった。分かりにくいし、初の場合乗り場案内も無く迷ってしまった。
	特にないが、窓ガラスが汚れていた。
	旅客船の運賃は高い！！
	料金が少し高いと感じた。片道千円。
	便数が少ない
	駐車料金が高い

6.3　家島諸島の魅力度調査（その２）

(1)　調査の概要

①　調査対象

この調査では、しまたびに参加し家島諸島を訪れた観光客など、社会実験の姫路～家島航路の共通乗船券を利用して家島諸島を訪れた人を対象とした。

②　調査方法

ツアーの際などにアンケート調査票と返信封筒を手渡し配付し、調査への協力をお願いした。

記入後の調査票は郵送にて回収した。

③　調査項目

ａ）個人属性（性別・年齢、居住地、家島への来訪回数、同行者数・その内容など）

ｂ）家島観光について（動機、立ち寄り先、アクセス交通手段など

ｃ）家島観光の評価（期待していたこと、実際に行ってみた評価など）

アンケート調査票を巻末の資料編に示す。

④　実施時期

令和元年 11 月から順次調査票を配付した。

⑤　調査票の回収状況

令和元年 12 月末までに 13 票の有効回答を得た。

⑵　回答者の属性

①　性別・年齢階層（問 13(1)）

・調査では、20 代～60 代の男女、合わせて 13 人から有効回答を得た。

・回答者数および年齢構成は表－11 に示すとおりである。

表－11　性別・年齢階層別回答者数

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答者数	無回答	合計
男性	1	1	0	6	1	0	0	9	2	11
女性	0	1	0	1	0	0	0	2	0	2
無回答	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	1	2	0	7	1	0	0	11	2	13

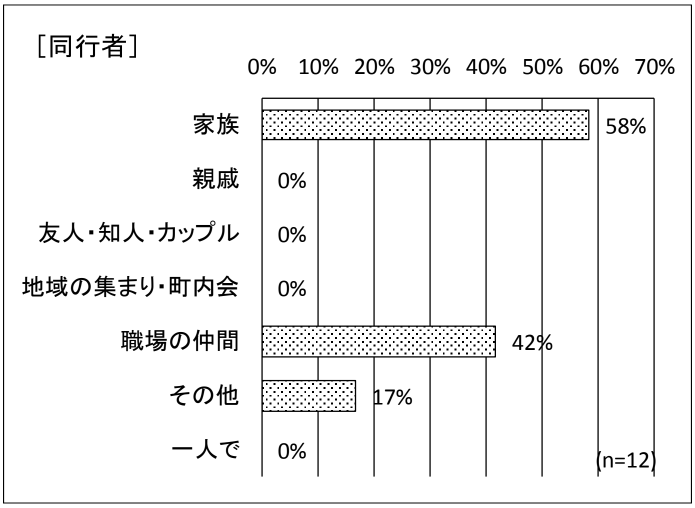
性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答者数
男性	11%	11%	0%	67%	11%	0%	0%	100%
女性	0%	50%	0%	50%	0%	0%	0%	100%
合計	9%	18%	0%	64%	9%	0%	0%	100%

②　グループ構成（問 13(4)）

・同行者は家族（58%）や職場の仲間（42%）が主であった。

（職場の仲間は、家島諸島の取材に訪れたグループである。）

図－41　同行者の構成



③　居住地分布（問 13(2)）

・13 人の回答者のうち、11 人が兵庫県内の居住者で、２人が東京都からの来訪であった。

表－12　居住地別回答者数

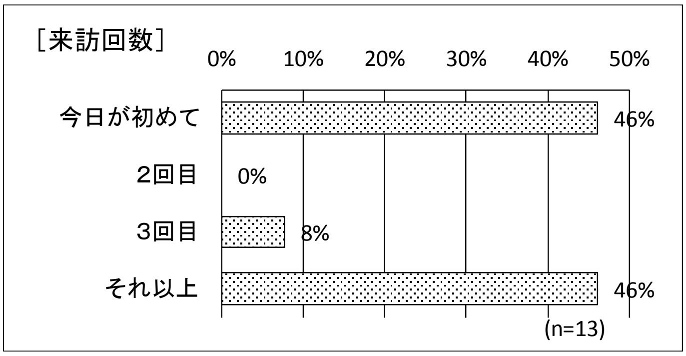
居住地		回答者数	構成比	小計	構成比
兵庫県内	姫路市	4	31%		
	加古川市	4	31%		
	神戸市	3	23%	11	85%
近畿以外	東京都	2	15%	2	15%
回答者数		13	100%		

④　家島への来訪頻度（問 13(3)）

・回答者の 46%が「今日が初めて」と回答した。

・また、４回以上が 46%、３回目が８％（１サンプル）であった。

図－42　家島諸島への来訪回数



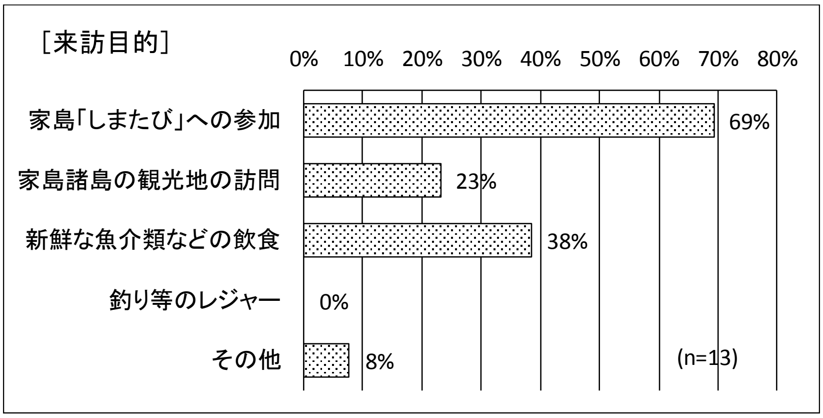
(3)　今回の家島訪問について

①　来訪目的（問１）

・共通乗船券の社会実験はしまたびの一環として実施したため、しまたびへの参加が 69%を占めた。

・以下、新鮮な魚介類などの飲食が 38%、家島諸島の観光地の訪問が 23%となった。

図－43　家島諸島への来訪目的



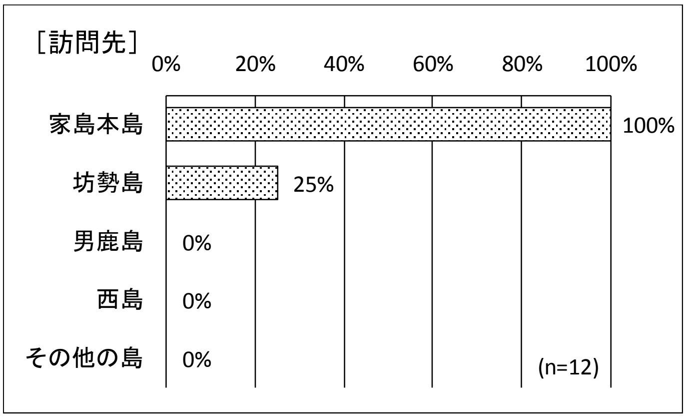
注：複数回答につき、パーセンテージの合計は 100%を超える。

②　訪問先（問２）

・訪問先は、家島本島で調査票を配付したため、全員が家島本島に回答した。

・家島本島以外では、坊勢島が 25%であった。

図－44　訪問した場所（島）

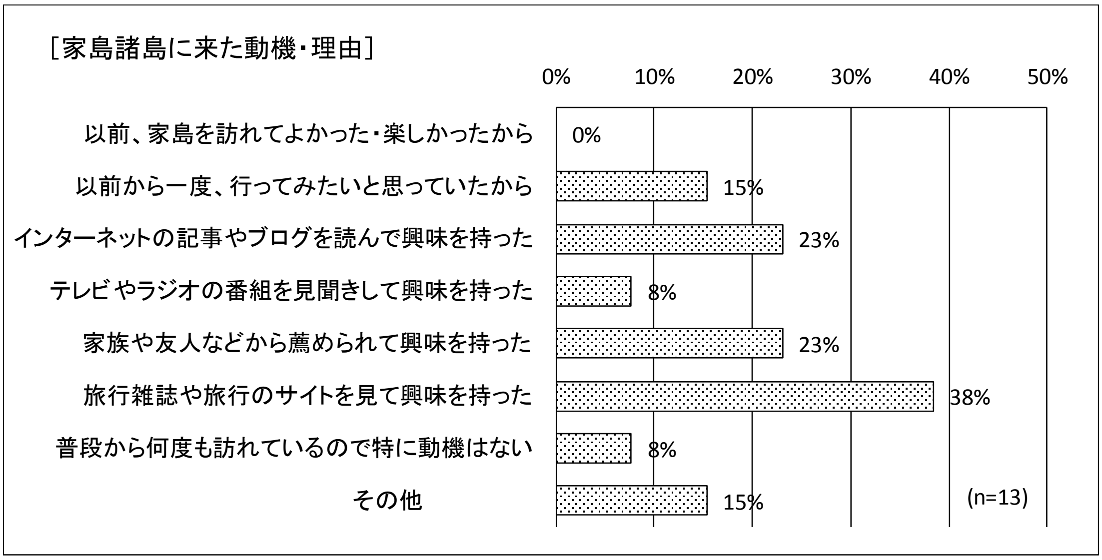


注：複数回答につき、パーセンテージの合計は 100%を超える。

③　家島諸島を訪れた動機（問３）

・家島諸島を訪れた動機や理由を尋ねたところ、旅行雑誌や旅行のサイトを見て興味を持ったという回答が 38%で最も多く、インターネットの記事やブログが動機となった、ならびに家族や友人などの薦めが 23%で次に多かった。

図－45　家島諸島を訪れた動機や理由

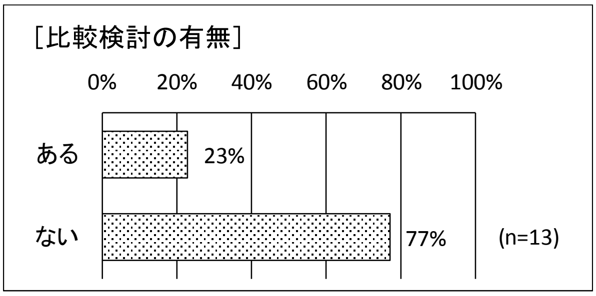


④　比較検討した場所の有無（問４）

・回答者の 77%は今回の訪問に際して、家島諸島以外の候補地を検討していなかった。

・比較検討したのは 23%（３サンプル）であり、比較の対象はいずれも小豆島であった。

図－46　比較検討した場所の有無と検討した観光地



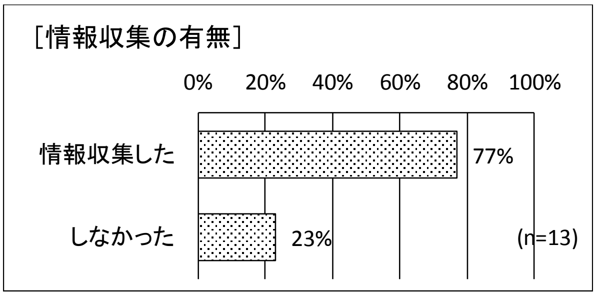
⑤　事前の情報収集（問５）

・回答者の 77%（10 サンプル）は事前に情報を収集していた。（図－32）

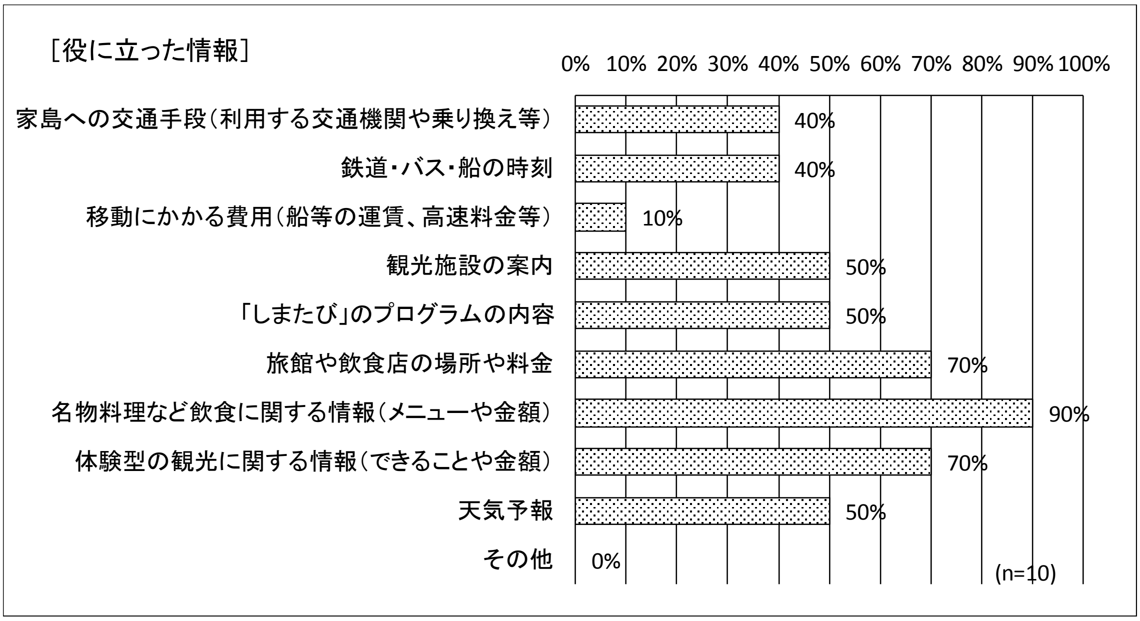
・役に立った情報として、名物料理など飲食に関する情報（90%）、旅館や飲食店の場所や料金（70%）、体験型の観光に関する情報（70%）を挙げた人が多い。（図－33）

・一方で、手に入りにくかった情報は５人から回答があり、各項目について０～２人が手に入りにくかったと回答した。

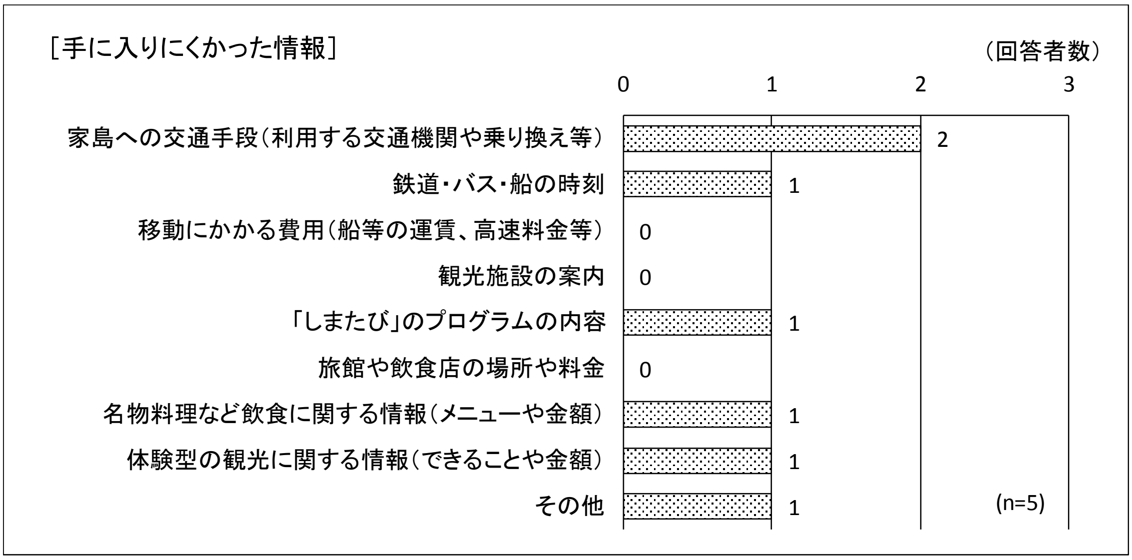
図－47　情報収集の有無



図－48　役に立った情報



図－49　手に入りにくかった情報

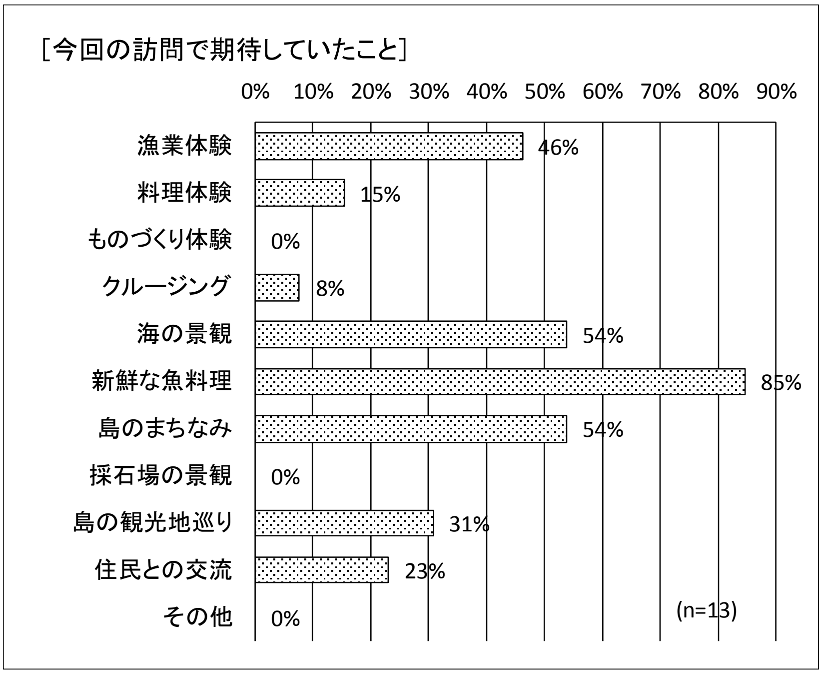


注：その他の具体的な回答は、「島内の移動手段」であった。

⑥　家島訪問への期待（問６）

・今回の家島訪問で期待していたこととして、新鮮な魚料理（85%）が突出して多く、海の景観・島のまちなみ（それぞれ 54%）や、漁業体験（46%）がそれに次いだ。

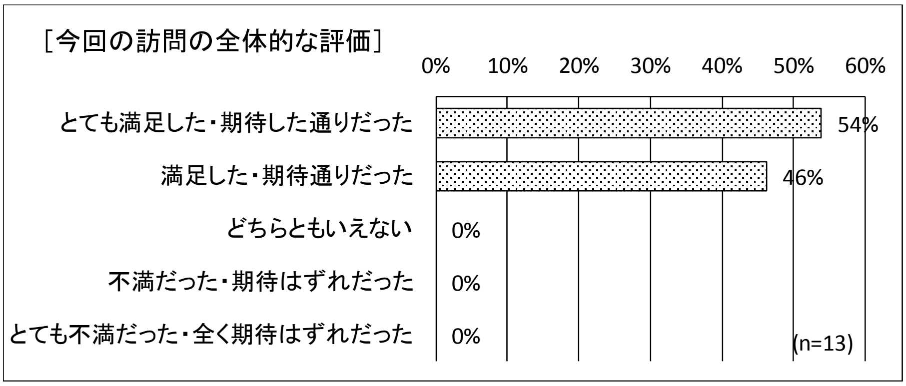
図－50　今回の訪問で期待していたこと



⑦　今回の訪問に対する評価（問７）

・今回の家島訪問に対し、54％がとても満足した、46％が満足したと回答し、全員がとても満足または満足と評価した。

図－51　家島を訪問した全体的な評価

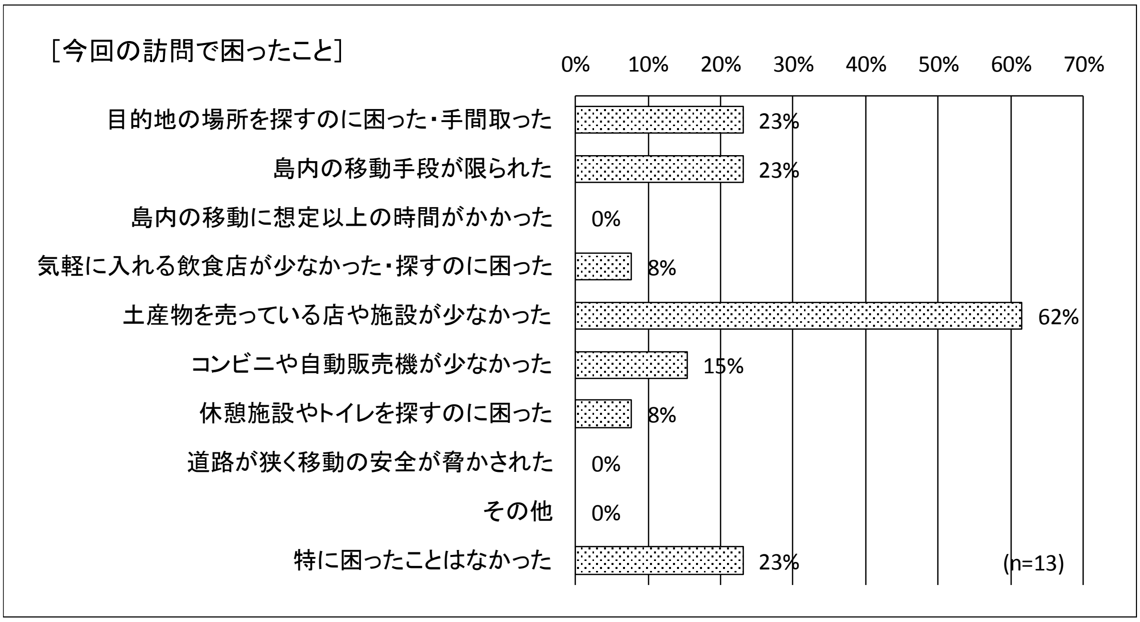


⑧　家島を訪問して困ったこと（問８）

・家島を訪問して困ったことを訪ねたところ、特に困ったことはなかったという回答は23％であった。

・一方、62％から土産物を売っている店や施設が少なかったとの回答があったほか、目的地の場所を探すのに困った、島内の移動手段が限られたとの回答がそれぞれ23％見られた。

図－52　今回の家島訪問で困ったこと



⑨　家島での消費額（問９）

・家島での消費額を集計したところ、支払のない人も含めた全体平均で、飲食が１人当たり 1,700 円余り、宿泊が 1,400 円余りなどの結果が得られた。

・また、支払いをした人に限った平均では、飲食が 2,200 円余り、宿泊が 4,100 円余り、土産物がおよそ 850 円などとなった。

表－13　今回の家島訪問での消費額

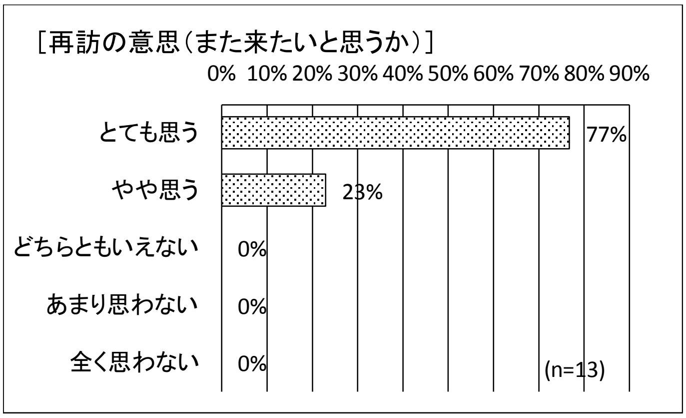
	支出総額 （円）	来訪者数 （人）	平均支払額 （グロス） （円／人）	支出者数 （人）	平均支払額 （ネット） （円／人）
飲食	87,000	51	1,706	39	2,231
土産物等の購入	7,600	51	149	9	844
宿泊	74,500	51	1,461	18	4,139

注：支出額は、同行者を含むグループ全体の支出額。来訪者数とは、各サンプルの同行者の総数。支出者数とは、各項目に１円以上支出したサンプルの同行者の総数。

⑩　再訪意向（問 10）

・家島にまた来てみたいかと尋ねたところ、77％がとてもそう思う、23％がやや思うと回答し、回答者の全員が再訪の意向を示した。

図－53　家島への再訪意向



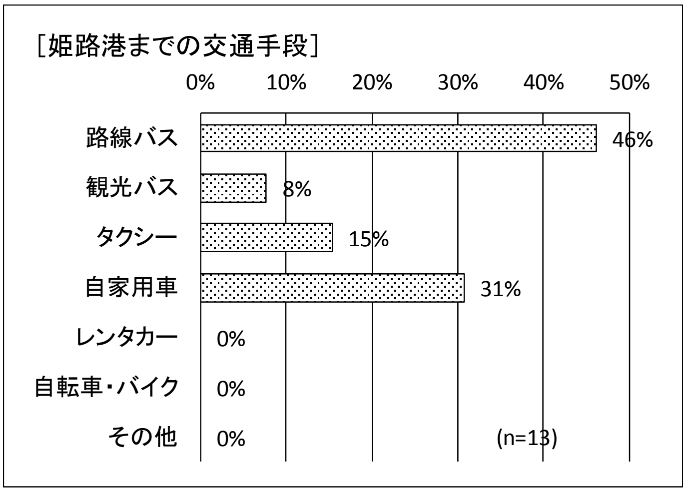
(4)　交通手段について

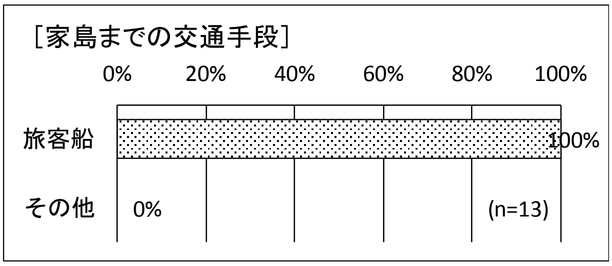
① 利用交通手段（問 11）

・姫路港までの利用交通手段は路線バスが 46%、自家用車が 31%であった。

・また、家島までの交通手段は、調査対象者を共通乗船券の利用者としたため、全員が旅客船であった。

図－54　利用交通手段



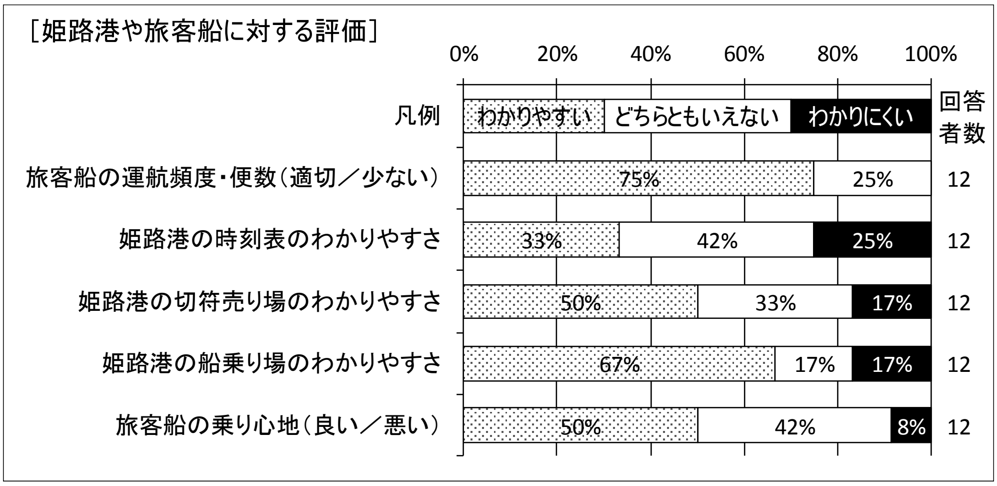


② 姫路港や旅客船に対する評価（問 12）

・姫路港や旅客船に関するわかりやすさ等を尋ねたところ、図の各項目について 33～75%がわかりやすい（または、適切である、良い）と答えた。

・一方で、姫路港の時刻表や切符売り場、船乗り場について、わかりにくいとの回答がそれぞれ 17～25%見られた。

図－55　姫路港や旅客船に対する評価

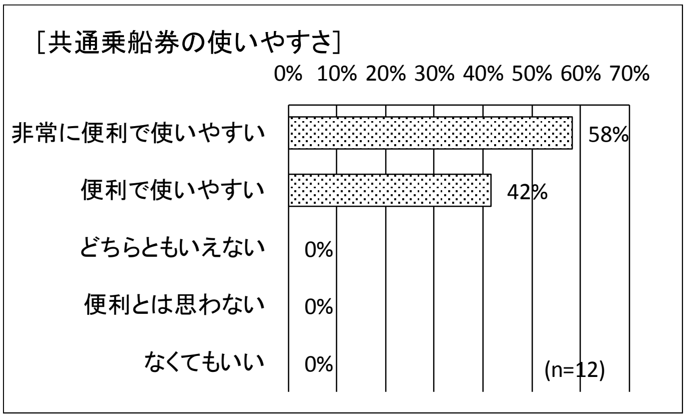


注：旅客船の運行頻度・便数は、「適切である／どちらともいえない／少ない」の三者択一、
旅客船の乗り心地は、「良い／どちらともいえない／悪い」の三者択一、
それ以外は図の凡例のとおり。

③　共通乗船券の使いやすさ（問 19）

・共通乗船券の使いやすさについて、58%が非常に便利で使いやすい、42%が便利で使いやすいと回答した。回答者の全員がつかいやすいと評価した。

図－56　共通乗船券の使いやすさに対する評価

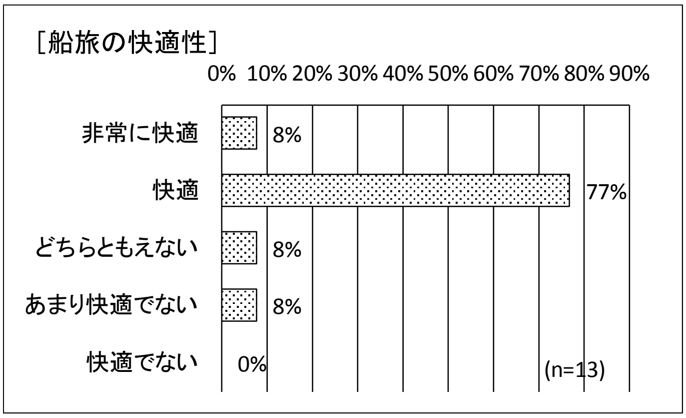


④　船旅の快適性（問 20）

・船旅の快適性について、77%が快適と回答した。また、非常に快適は８％（１サンプル）であった。

・その一方で、どちらともいえないとあまり快適でないとの回答がそれぞれ８％（1 サンプル）ずつ見られた。

図－57　船旅の快適性に関する評価



⑤　自由意見（問 21）

・旅客船に対して希望するサービスや家島諸島ツアーの内容などに関する自由意見の記述を求めたところ、８人から回答があった。その内容を以下に記す。

表－14　旅客船のサービスやツアーに関する自由意見

連番	意見
1	プランの中に、自転車 or カートをつけてほしい。往復割引をつけてほしい。
2	往復割引をつけて、自転車かカートをプランにつけてほしい。
3	大型船の運航を増やしてほしい。往復割引を行ってほしい。
4	島内観光パンフレットが船内にあればよい。（航空機のような雑誌など）
5	船の客室内から窓の景色が見づらい。
6	路線バスと円教寺のセット券があるように、路線バスと旅客船のセット券を希望する。
7	小さな旅客船はうるさい
8	島歩きと底引き網体験はどちらも楽しかったと思います。 島での移動手段の情報を増やしてもらいたいとです。Ex:移動手段の種類（電動自転車、電動三輪車、レンタカー、モーターバイクとか）、借りる場所とか。 改善点：姫路港←→家島諸島の時刻表が少しわかりづらいです。

6.4　家島諸島の観光に関する意識調査

(1)　調査の概要

①　調査対象

観光で家島を訪れない人の要因を把握し、家島の交流人口拡大に向けた課題整理の一助とするため、国内観光客で家島を訪れたことのない人を対象に調査を実施した。

②　調査方法

姫路駅の観光案内所（姫路観光なびポート）を訪れた国内観光客を対象に聞き取り調査を実施した。

具体的には、同案内所を訪れた観光客に声をかけ、家島を観光目的で訪問したことがないことを確認したうえで調査を依頼した。

③　調査項目

ａ）家島の認知状況（家島自体を知っているか、観光として訪れる対象と考えているか）

ｂ）家島への観光目的での訪問意向（行きたいと思う／思わない）

ｃ）家島に行かない・行ったことがない理由

ｄ）個人属性

聞き取りに用いた調査票を巻末の資料編に示す。

④　調査日時

・令和元年 10 月 19 日（土）10 時～15 時 30 分の間に実施した。

⑤　回答者数

・38 人に調査に対する同意を得たが、うち３名は家島を訪問した経験があり、35 人から回答を得た。

(2) 回答者の属性

① 性別・年齢階層（問９）

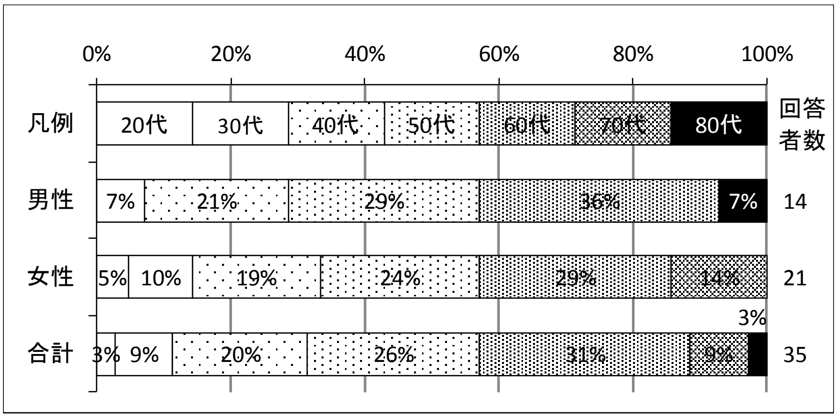
・調査では、35 人から回答を得た。

・うち男性が 14 人、女性が 21 人、年齢構成は次の図表に示すとおりである。

表－15 性別・年齢階層別回答者数

性別	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代	回答者数
男性	0	1	3	4	5	0	1	14
女性	1	2	4	5	6	3	0	21
合計	1	3	7	9	11	3	1	35

図－58 回答者の性別・年齢構成比



③ 居住地分布（問 10）

・姫路駅の観光案内所で調査したため、回答者の 71％は近畿以外の居住者であった。

・その分布は、北海道から鹿児島県に及んだ。

表－16 居住地別回答者数

居住地		回答者数	構成比	小計	構成比
兵庫県内	姫路市	1	3%		
	神戸市	2	6%		
	加古川市	3	9%	6	17%
近畿	滋賀県	1	3%		
	大阪府	3	9%	4	11%
近畿以外	北海道	1	3%		
	群馬県	1	3%		
	千葉県	1	3%		
	東京都	2	6%		
	神奈川県	5	14%		
	愛知県	6	17%		
	香川県	1	3%		
	愛媛県	1	3%		
	福岡県	4	11%		
	長崎県	1	3%		
	鹿児島県	1	3%		
	アメリカ合衆国	1	3%	25	71%
回答者数		35	100%		

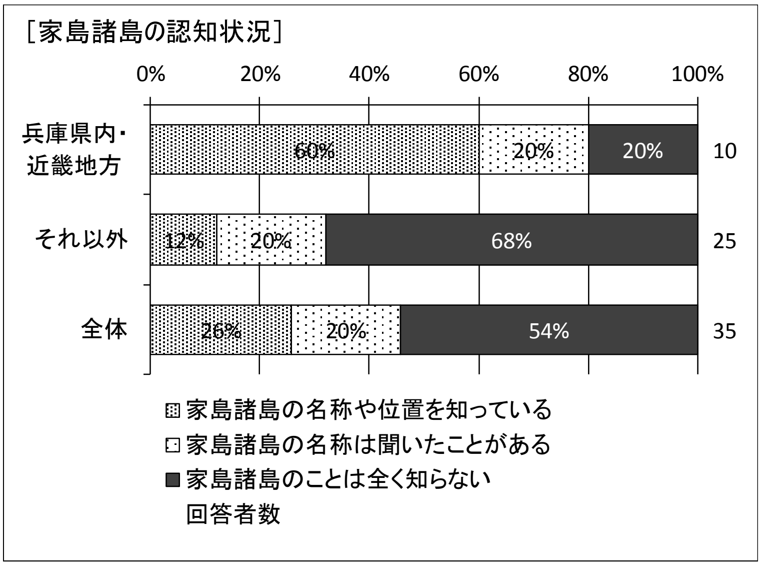
(3)　家島諸島への観光について

①　家島諸島の認知状況（問１）

・家島諸島について知っているかどうかを尋ねたところ、回答者の 54%が全く知らない（名称も位置も知らない）と回答した。

・居住地別にみると、兵庫県や近畿地方の居住者では、全く知らない人は 20%に留まるが、近畿以外の居住者では、68%が全く知らないと答え、名称も場所も知っている人は 12%（３サンプル）に限られた。

図－59　居住地別・家島諸島の認知状況

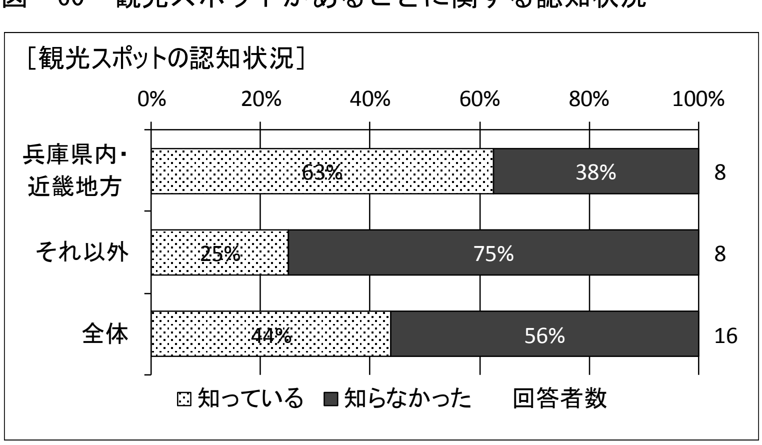


②　観光スポットに関する認知状況（問２）

・家島に観光スポットがあることについて、知っていると回答した人は全体の 44%であった。

・兵庫県内や近畿地方の居住者では 63%が知っているのに対し、近畿以外の居住者では 75%が知らないと回答した。

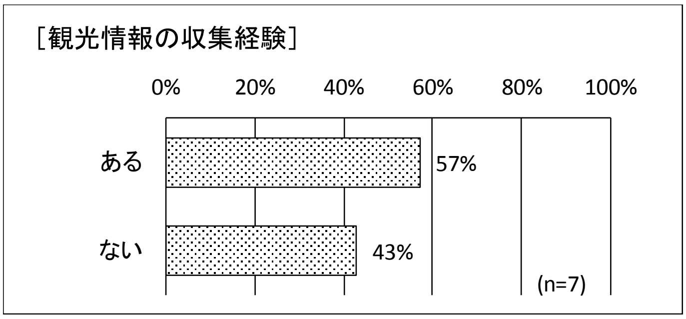
図－60　観光スポットがあることに関する認知状況



③　観光情報収集の経験（問３）

・家島諸島に観光スポットがあることを知っている人（７サンプル）を対象に、家島諸島の観光情報を収集した経験の有無を尋ねたところ、57%（４サンプル）が観光情報を収集したことがあると回答した。

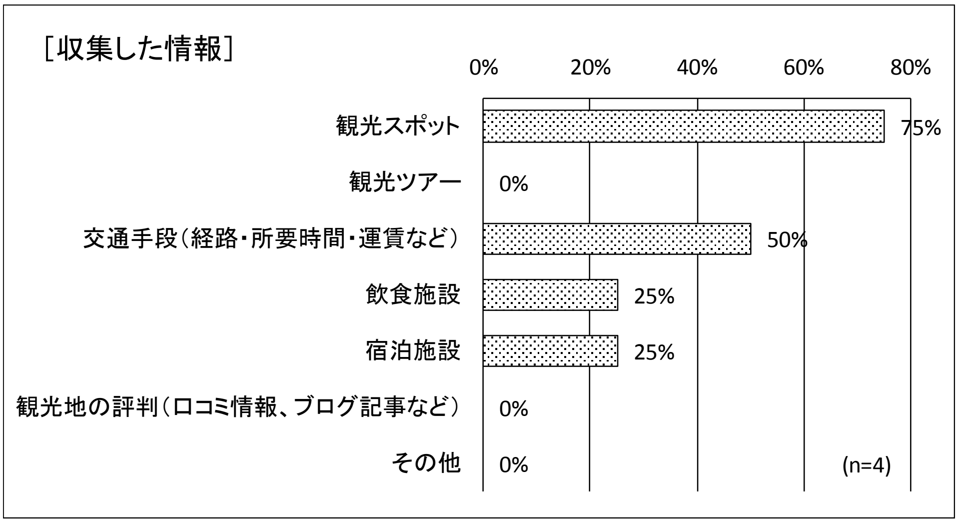
図－61　観光情報を収集した経験の有無



④　収集した情報（問４(1)）

・収集した観光情報は、観光スポットが最も多く（75%、３サンプル）、交通手段が 50%（２サンプル）などであった。

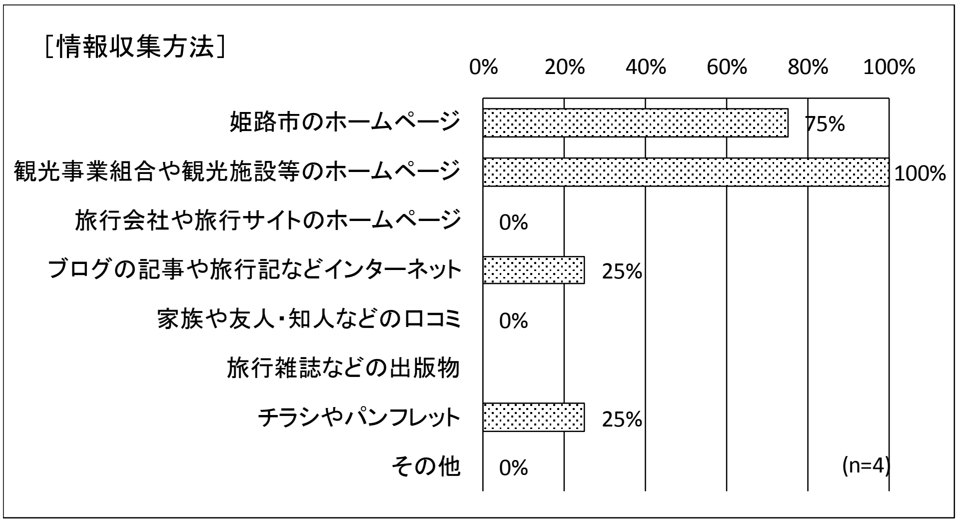
図－62　収集した情報の項目



⑤　情報収集方法（問４(2)）

・情報収集の方法は、もっぱらインターネット（姫路市や観光事業組合のＨＰ）であった。

図－63　情報収集の方法

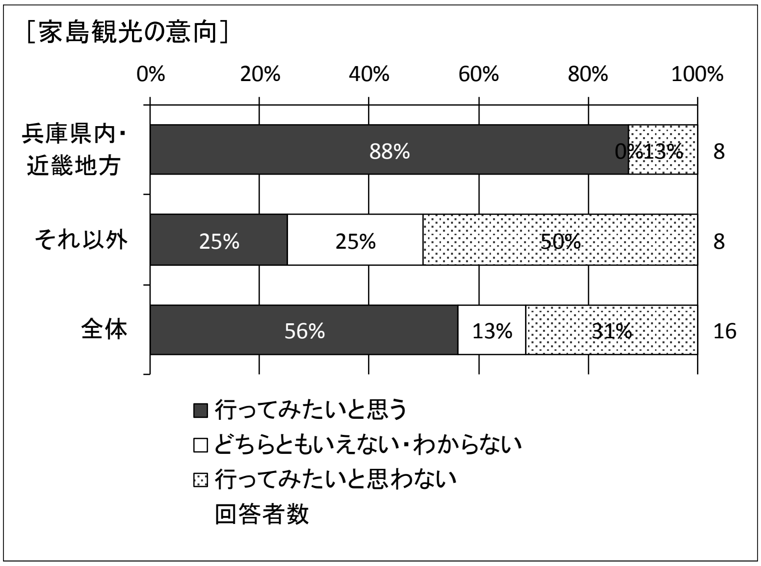


⑥　家島諸島への観光に対する意向（問５）

・家島諸島の名称または位置を知っている人に対し、家島諸島に観光に行ってみたいかどうかを尋ねたところ、全体の 56%が行ってみたいと回答した。

・居住地別に見ると、兵庫県内や近畿地方の居住者では、88%が行ってみたいと回答したのに対し、近畿以外の居住者では行ってみたいとの回答は 25%に留まり、50%は行ってみたいと思わないと回答した。

図－64　家島諸島への観光の意向

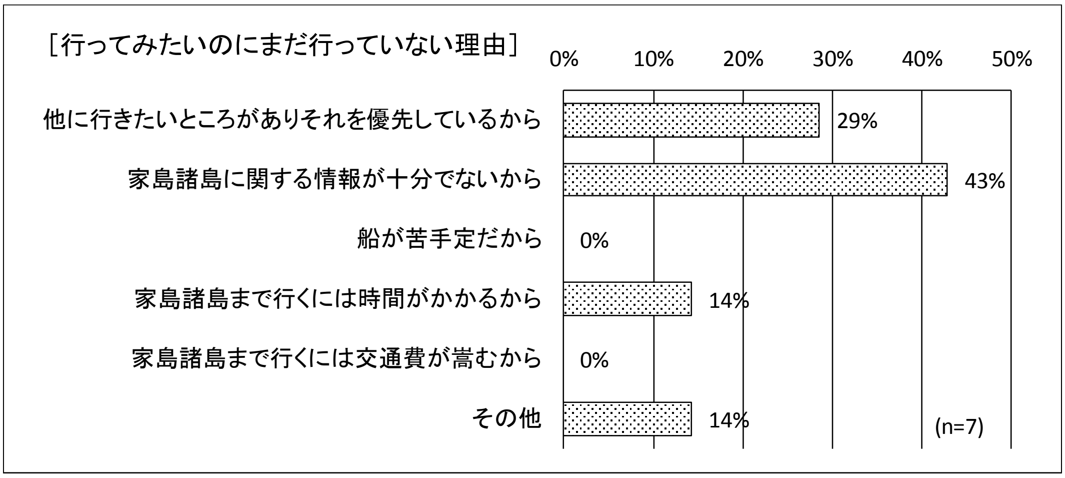


⑦　家島に行ってみたいのに行っていない理由（問６）

・家島諸島に行ってみたいと回答した人（７サンプル）に対し、行ってみたいと思うのに、まだ行ったことがない理由について尋ねたところ、家島諸島に関する情報が十分でないからが43%（３サンプル）、他に行きたいところがありそれを優先しているからが29%（２サンプル）であった。

・時間がかかる、交通費が嵩むなどの回答はわずかであった。

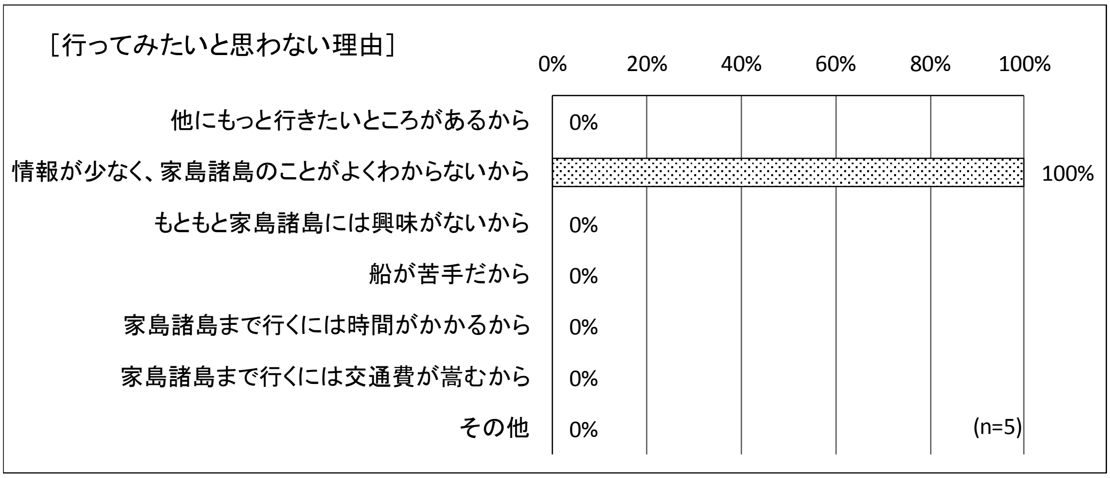
図－65　家島諸島に行っていない理由



⑧　行ってみたいと思わない理由（問７）

・家島諸島に行ってみたいと思わない理由を尋ねたところ、全員（５サンプル）が情報が少なく家島諸島のことがよくわからないからと回答した。

図－66　家島諸島に行ってみたいと思わない理由



⑧　他の離島の訪問経験（問８）

・対象者全員に他の離島の訪問経験を尋ねたところ、経験のある人とない人がほぼ半々に分かれた。

・行ったことのある離島としては、小豆島という回答が最も多かった。

・行ったことのある離島の具体的な回答結果は以下に示す。

表－17　他の離島の訪問経験

	回答者数	構成比
ある	18	51%
ない	17	49%
回答者数	35	100%

行ったことがある離島
小豆島　(4人)
小豆島、直島
小豆島、佐久島(愛知県)
直島
直島、佐渡島
愛知県の島
三河湾の島
江田島
愛媛周辺の島
しまなみ海道、瀬戸大橋周辺の島
種子島
屋久島、石垣島
沖縄の島
石垣島、竹富島
宮古島

７．交流人口の拡大に向けた課題整理

(1)　アンケート調査結果のまとめ

以上に示したアンケート調査結果の概要を以下に再整理する。

①　家島諸島の魅力度調査（その１）より

表－18　家島諸島の魅力度調査（飲食店等利用者）の結果概要

項　目	調査結果の概要
来訪者	○ 来訪者の９割余り（92%）は近畿地方から。兵庫県内が約半数（54%）。 ○ 初めて来訪した人が約７割（73%）。残りの約３割がリピーター。 ○ 来訪者の約７割（68%）が新鮮な魚介類を目的として来訪。 観光地訪問を目的とした人が約半数（49%）。（複数回答） ○ 家島本島以外にも足を伸ばした人は少ない（坊勢島に行った人：９%など）。 ○ 家島諸島に来た動機は、以前から一度行ってみたいと思っていた（37%）や家族・友人などの薦め（35%）が３分の１余りなど。
情報収集	○ 来訪者の約３分の２（65%）が事前に情報を収集。 ○ 交通手段に関すること（57～73%）や旅館・飲食店の場所や料金（57%）について情報収集した人が多い。 ○ しかし、名物料理など飲食に関する情報（35%）や飲食店の場所や料金に関する情報（33%）が得にくかったという指摘が多くみられた。
期待と評価	○ 家島訪問に際し、８割近く（77%）が新鮮な魚介類に対して期待。 ○ これに対し、約７割（72%）がとても満足した・満足したと回答。 ○ 再訪意向についても、４分の３（75%）がとても思う・やや思うと回答。 ○ 評価の理由として、魚介類の飲食に対する好評価に加え、「のどか」「静か」「島の人が気さく」「島の人たちが優しい」などの意見が聞かれた。 ○ 一方で、不満と回答した人には、「観光地が少ない」「日曜に来て店が閉まっていた」「宮で下船したがレンタサイクルなど案内所がなかった」などの意見があった。 ○ 今回の訪問で困ったこととして、40%が目的地の場所を探すのに困った・手間取ったと回答。 ○ また、約３割が土産物を売っている店が少なかった（29%）、気軽に入れる飲食店が少なかった（29%）と回答。
交通手段	○ 姫路港までの交通手段は、自家用車が45%、路線バスが41%。 ○ 旅客船に対する評価は、各項目について57～67%がわかりやすい（適切である、良い）と回答。 ○ 「高速で思っていたより早く到着できた」、「快適だった」、「初体験で楽しかった」などの具体的な記述も見られた。 ○ 姫路港の時刻表と姫路港の切符売り場については、約２割（21%）がわかりにくいと回答。 ○ 「姫路で往復乗船券を購入したが、復路に変更に手間取った」、「姫路港の自動券売機で予定と違う切符を買ってしまった。乗り場案内もなく迷った。」という具体的な指摘があった。

② 家島諸島の魅力度調査（その２）より

表－19 家島諸島の魅力度調査（しまたび参加者等）の結果概要

項　目	調査結果の概要
来訪者	○ 回答者は 13 人。うち 11 人が兵庫県内の居住者、２人が東京都の居住者。 ○ 初めて来訪した人と４回以上来訪経験のある人がそれぞれ６人。 ○ しまたびへの参加者が 69%、新鮮な魚介類の飲食を目的とした人が 38%。 ○ 38%が旅行雑誌や旅行のサイトを見て興味を持った。
情報収集	○ 来訪者の 77%が事前に情報を収集。 ○ 名物料理などに関する情報（90%）や旅館・飲食店の場所や料金（70%）、体験型の観光に関する情報（70%）について収集した人が多い。
期待と評価	○ 家島訪問に際し、85%が新鮮な魚介類に対して期待。海の景観や島のまちなみに対して期待していた人がそれぞれ 54%。 ○ これに対し、全員がとても満足した・満足したと回答。 ○ 再訪意向についても、全員がとても思う・やや思うと回答。 ○ 今回の訪問で困ったこととして、62%が土産物を売っている店が少なかったと回答。
交通手段	○ 姫路港までの交通手段は、路線バスが 46%、自家用車が 31%。 ○ 旅客船に対する評価は、各項目について 33～75%がわかりやすい（適切である、良い）と回答。 ○ 共通乗船券については、全員が非常に便利で使いやすい、または便利で使いやすいと回答。船旅について 77%が満足と回答。 ○ 一方で、25%が姫路港の時刻表について、17%が姫路港の切符売り場、姫路港の船乗り場について、それぞれわかりにくいと回答。 ○ 「往復割引を設定してほしい」、「路線バスと旅客船のセット券を希望する」、「島内観光のパンフレットが船内にあればよい」などの意見が寄せられた。 ○ また、「小さな旅客船はうるさい」、「窓の景色がみづらい」という指摘もあった。

③ 家島諸島の観光に関する意識調査より

表－20 家島諸島の観光に関する意識調査の結果概要

項　目	調査結果の概要
回答者	○ 約７割（71%）が近畿以外に居住する人。 ○ 近畿以外に居住する人の約３分の２（68%）は家島の名称も場所も知らない。近畿地方に居住する人は、60%が名称も位置も知っていた。 ○ 家島に観光スポットがあることは、近畿以外の 75%、近畿地方の４割弱（38%）が知らない。
情報収集	○ 家島諸島に関する情報収集をしたことがあるのは、35 人中４人だけ。 ○ 観光スポットの情報を、兵庫県や家島観光事業組合のＨＰを通じて収集したという回答が多かった。
訪問意向	○ 家島諸島に行ってみたいという人は、近畿地方居住者では 88%（８人中７人）であったが、近畿以外では 25%（８人中２人）に留まった。 ○ 行きたいがまだ行っていない、または、行ってみたいと思わない理由として、家島諸島の情報が十分でないとの意見が多かった。（それぞれ 43%、100%） ○ 回答者の約半数（51%）は他の離島を訪問した経験があった。

(2) 交流人口の拡大に向けた課題

これらの結果を概観すると、観光で家島諸島を訪れた人の満足度は高いものの、飲食・物販施設の充実を求める声が多かったこと、定期航路の利便性や快適性は評価されたものの、乗船券購入時のわかりにくさについて指摘があったこと、家島諸島における観光に関する情報が少ないことが明確になった。

このため、次に示す３つの視点から交流人口の拡大に向けた課題を整理した。

① 観光施設等の環境整備について

・家島諸島の魅力度調査より、家島諸島を訪れた人の多くは新鮮な魚介類の飲食を目的とし期待しており、それに違わぬ評価を得たほか、再訪の意向を示していることが明らかになった。それに加えて、「島の人が気さく、優しい」という評価も得た。

・しかし一方で、魅力度調査の回答者の 30%余りが「土産物を売っている店が少なかった」「気軽に入れる店が少なかった」と回答したほか、「観光地が少ない」「魚を購入したかったが叶わなかった」など、観光施設の不足を指摘する具体的な意見が寄せられた。

・第２回検討委員会では、日曜日も飲食店は営業しているが、観光客の増加で需要に供給が追い付かないこと、宿泊準備などのために午後の一部の時間帯に飲食店の営業が休止するケースがあることなどの状況が報告された。

・また、レンタサイクルや電動三輪車の貸し出しサービスは提供されているが、台数が限られツアーでは使いにくいとの指摘もあった。

・こうしたことから、次に示す視点から、観光客が便利に、かつ快適に観光できる環境整備を図ることが課題であると考えられる。

○ 観光客向けの飲食・物販施設の充実

○ 島内における移動環境の整備

② 定期航路について

・旅客船の利便性や快適性については、一定の評価を得たと考えられる。高速で思ったより早く着いた、楽しかった、などの具体的な意見も寄せられた。

・しかし、姫路港の時刻表や切符売り場について、家島諸島に来訪した人の約２割からわかりにくいとの指摘を受けた。

・また、姫路港で往復乗船券を購入した人が復路に切符の変更に苦労した、姫路港で切符を誤って購入したなどという具体的な意見も寄せられた。

・社会実験として実施した共通乗船券について、共通乗船券の利用者全員から便利で使いやすいとの評価を得た。

・その一方で、往復割引の設定を望む声が少なからず聞かれた。

・本検討委員会でもこれまでに何度も議論してきたことではあるが、次に示す視点から定期航路の利用のわかりやすさや共通乗船サービス等による利便性の向上を図ることが課題である。

○ 姫路港における旅行者等不慣れな人に対するわかりやすさの向上

○ 共通乗船サービスや往復割引等による利便性の向上

③ 情報発信について

・家島諸島の観光に関する意識調査より、近畿地方以外に居住する人の多くは家島諸島のことさえ知らなかったこと、近畿地方に居住する人も、家島諸島のことは知っていても観光スポットがあることを知らない人が多かったことが明らかになった。

・また、家島に行ってみようと思わない理由として、観光に関する情報不足を指摘する意見が多かった。

・このように、家島諸島が観光対象であるという情報が不足している（広く知られていない）ことが明らかになった。

・一方、家島諸島を訪問した人の多くが旅館や飲食店に関する情報を事前に収集していた。

・しかし、名物料理などの飲食に関する情報や飲食店の場所や料金に関する情報が得にくかったという指摘が多いほか、情報不足のため予定がくるったという意見も寄せられた。

・加えて、「場所がわかりにくい」「宮に案内所がない」など現地での案内不足を指摘する意見も見られた。

・こうしたことを考え合わせると、次のような視点から家島の魅力などについて、積極的に情報発信することが重要な課題であると考えられる。

○ 家島諸島にも観光地があることを広く周知すること

○ 新鮮な魚など家島諸島の観光の魅力に関する情報提供を充実させること

○ これらを通じ、観光の目的地として家島諸島を選択してもらえるようにすること

○ 家島を訪れる観光客に対し、観光地や宿泊施設、飲食店などに関する情報を事前に提供すること

○ 家島諸島の各港（真浦、宮、網手、奈座）や家島諸島の主要な地点における観光案内や地理案内を充実させること

８．交流人口を拡大させるための方策（案）

以上に示した検討課題に対し、家島諸島の交流人口を拡大させるための方策について、家島諸島の現状を踏まえ、具体的な方策を示す。

(1)　観光施設等の環境整備

①　島内における移動環境の整備

・現状では、島内の移動手段は徒歩が主体となっているが、観光目的や観光客の特性（年齢や身体機能など）に応じて適切な移動手段が選択できるよう、移動環境の整備を図る。

・たとえば、現状では住民の利用に合わせて運行されているコミュニティバスについて、運行区間の拡大や定期航路との接続改善などを図るとともに、これらの情報を幅広く発信し、観光客にとっても利用しやすい移動手段としての活用を図り、島内移動の利便性を向上させる。

・また、電動三輪車やレンタサイクルのサービス向上（増備、配置場所の拡充、飲食や宿泊とセットになった企画サービスの実施、レンタサイクルの乗り捨てシステムの導入など）を図り、利便性の向上を図る。

②　飲食・物販施設の充実

・飲食・物販施設の立地場所のわかりやすさの向上（たとえば、共通のロゴやマークを掲出するなど）や営業時間の見直しなどを行い、観光客が迷うことなく気軽に利用できる環境を創出する。

・土産物の販売場所が少ないという観光客の声に対応するため、物販施設の拡充を図る。

・それに加え、島ならではの海産物等の買い物ができる施設や休憩施設（交流拠点）を充実させる。

(2)　観光客等に対する定期航路の利便性の向上

①　姫路港におけるわかりやすさの向上

・姫路～家島諸島航路の利用に不慣れな観光客等にとって、姫路港の切符売り場や時刻表、乗り場がわかりにくいとの声が少なくないことに対し、これらのわかりやすさの向上を図る。

・たとえば、現状では異なる場所に配置されている時刻表と航路事業者２社の切符売り場の配置場所を改善し、出航時刻を確認しながら乗船券を購入できるようにすること、家島行・坊勢島行の乗り場が一瞥してわかるサインを掲出すること、通路の路面に各乗り場への動線を色分けして表記することなどの方策が考えられる。

・それに加え、姫路ポートセンターに案内所を設け観光案内の充実を図ること、姫路港付近の駐車場の案内を充実させることも必要と考えられる。

② 共通乗船サービスの充実など

・共通乗船券に関する社会実験の結果、共通乗船券は顧客のニーズに対応したサービスであることが判明した。また、誤購入の不安がなくストレスフリーな旅行を可能とするなど、メリットは大きいと考えられるため、このようなサービスを今後、拡充して実施していく必要がある。

・将来的には、往復割引の設定や陸上交通（バス）と連携した企画切符の販売等、利用者サービスの拡充を図る方策についても検討が必要である。

・また、現状の制度において発生する誤購入の対応については、乗船券の券面に「間違って購入された場合は船員に申し出て下さい」などと表記し、申し出に対して共通乗船サービスを適用することが考えられる。こうした対応により、乗船券の再購入や払戻などの負担を軽減することは、利用者サービスの観点からも必要である。

(3) 家島観光に対する情報発信

① 家島諸島の魅力や観光情報の積極的な発信

・家島諸島が観光の対象になることを知らない人が多い中、家島諸島の魅力や観光情報を積極的に発信し、家島諸島の認知度を向上させる。

・こうした取り組みは家島観光事業組合などが既に進めているところであるが、家島航路に関連する国や自治体、関係機関と連携した取り組みを行うことに留意が必要である。

・その際、他の地域と差別化できる家島諸島の「強み」（例えば、家島諸島ならではの食材、家島諸島ならではの体験型観光など）を発信することも重要である。

② 家島への観光客に対する情報提供の充実

・飲食を目的として家島諸島を訪れる観光客が多い中、飲食店の場所や営業時間、メニューなどの情報を観光客が事前に入手できるよう、観光客に対する情報発信の充実を図る。

・具体的には、観光パンフレットに宿泊・飲食・物販施設の場所や営業時間などの情報を掲載するとともに、旬の食材や料理、季節に応じた土産物など、日々変化する情報をインターネットを通じて提供するなど、家島諸島の旬な情報をわかりやすくタイムリーに発信する。

・また、家島を訪れた観光客に対する現地での案内情報の提供を充実させ、観光客の不安感を払拭し、安心して快適に観光できる環境を創出する。

・たとえば、観光案内をはじめ、利用可能な移動手段や宿泊・飲食・物販施設の配置などを記した島内で有効活用できる地図やパンフレットなどを制作すること、それを真浦港・宮港の案内所や旅客船の座席ポケット等に設置して観光客が容易に入手できるようにすること、島

内の主要な地点に地理案内のための情報版を設置することなどが考えられる。

・家島諸島に向かう定期旅客の船内アナウンスで島のガイドを行うことも効果的と考えられる。

③　戦略的な観光情報の発信

・家島諸島の観光情報をより効果的に伝えるとともに、家島諸島の観光活性化を推進するため、次に示すような方策により戦略的に観光情報を発信する。

・食、体験、自然など、シーズン毎の情報を効果的に発信する。

・家島本島と坊勢との連携を図り、食のＰＲの強化など滞在型観光を促進する。

・瀬戸内の島として、他の地域と連携した情報発信を行う。

・観光客を呼び込みリピ―ターを増やすため、電子メールやＳＮＳを活用してイベント情報などを発信する。

(4)　島民の観光客に対するおもてなし機運の醸成

・家島諸島の魅力度調査では、家島に来て満足した理由として、島の人が気さく、島の人がやさしいという回答があった。

・家島諸島を訪れた観光客が島民に対して好感を抱いていることは、観光客の満足度向上の観点から重要である。

・それが観光の活性化につながり、交流人口が増加して家島諸島航路の利用増進につながることが期待される。

・そのためには、島民一人ひとりが観光の活性化の重要性を認識しつつ、おもてなしの心を持って日常生活の中で観光客と接することを心掛け、一人ひとりができる範囲で実行することが重要と考えられる。

・たとえば、坊勢中学校では、学校への来客に中学生が大きな声で挨拶することが日常的に行われているが、こうした行動はおもてなしの実践に関する好例である。

・このような挨拶をはじめ、観光客に対する道案内、困っていると思われる観光客への声掛けなど、島民ができる範囲でフレンドリーに観光客に接する機会を増やす。

９．まとめ（取り組みの実施と将来を見通した体制の充実に向けて）

本調査では、家島諸島航路を安定的に確保・維持するための観光振興等による交流人口拡大の方策について検討を行い、具体的な事業の取り組みについて提案を取りまとめた。

取り組みにあたっては、家島諸島の実情に即し、柔軟にサービスを提供できる体制を構築し、実行可能なものから順次実施していくことが望まれる。

具体的に「すぐに実施できる方策」と「次に実施する方策」に区分すると、次のように整理できる。

表－21　取り組みの実施順序（案）

区分	交流人口を拡大させる方策
すぐに実施できる方策 短期的な取り組み	・飲食・物販施設の共通ロゴマークなどの掲出 ・姫路港の切符売り場の配置改善・時刻表掲出の改善 ・共通乗船サービスの適用拡大・誤乗船時の対応充実 ・家島諸島の魅力の積極的な発信・関係機関との連携強化 ・観光客に対する飲食店等の情報提供の充実 ・観光パンフレットの配布場所の拡大（港、船内など） ・船内アナウンスによる観光ガイド
次に実施する方策 中長期的な取り組み	・コミュニティバスの運行区間の拡大・定期航路との接続改善 ・電動三輪車やレンタサイクルの増備等のサービス向上 ・土産物の販売場所など物販施設の充実 ・島ならではの物販施設や交流拠点の充実 ・姫路港の乗り場案内のサイン掲出等わかりやすさの向上 ・姫路港における案内所の設置や駐車場案内の充実 ・往復割引や路線バスと連携した企画切符の発売 ・観光活性化のための戦略的な観光情報の発信 ・島民のおもてなし機運の醸成

現在、全国的に観光需要が高まり、離島への旅行に関する機運も高まる中、家島諸島においてもこうした機会を逸することなく、観光振興等による交流人口の拡大に向けた取り組みを充実させていくことが航路確保・維持に必要と考えられる。

今後、家島諸島航路の利便性向上や確保・維持に向け、共通乗船サービスや路線バスと連携した企画切符の販売など、本調査において提案された具体的な取り組みを進めて行くには、行政や地域事業者、更には住民等も含め、地域の幅広い関係者が一体となって取り組むことが重要である。

そのためには、地域の幅広い関係者が日頃の情報交換と意思疎通をこれまで以上に行い、家島の将来に対する危機感の共有と柔軟に対応するための協働意識を醸成していくことが望ましい。さらに、地域の幅広い関係者が日頃の情報交換と意思疎通をこれまで以上に行い、家島の将来に対する危機感の共有と柔軟に対応するための協働意識を醸成していくことが望ましい。

資　料　編

家島アンケート調査・調査票

１）家島諸島の魅力度調査（その１）

２）家島諸島の魅力度調査（その２）

３）家島諸島の観光に関する意識調査

家島諸島の魅力度調査・調査票

質　問	回　答　欄
問1　本日はどのような目的で家島諸島にお越しになりましたか。（○はいくつでも）	1. 家島「しまたび」への参加　→問１⑵にもお答え下さい 2. 家島諸島の観光地の訪問　→問２に進んで下さい 3. 新鮮な魚介類などの飲食　→　〃 4. 釣り等のレジャー　→　〃 5. その他（　　　　　　　　　　）→　〃
問1（2）問1で 1. に○をつけた方にお尋ねします。参加したプログラムの名称を教えて下さい。	（　　　　　　　　　　） ※ 参加プログラム名が不明の場合は記入不要
問2　今回は家島諸島のどこに行かれましたか。（○はいくつでも）	1. 家島本島　2. 坊勢島　3. 男鹿島 4. 西島　5. その他の島
問3　本日、家島諸島に来られた動機や理由を教えて下さい。（○はいくつでも）	1. 以前、家島を訪れてよかった・楽しかったから 2. 以前から一度、行ってみたいと思っていたから 3. インターネットの記事やブログを読んで興味を持った 4. テレビやラジオの番組を見聞きして興味を持った 5. 家族や友人などから薦められて興味を持った 6. 旅行雑誌や旅行のサイトを見て興味を持った 7. 普段から何度も訪れているので特に動機はない 8. その他（　　　　　　　　　　）
問4　本日は家島にお越しですが、他に比較検討したところがありますか？（○は一つ）	1. ある→（具体的に　　　　　　　　　　） 2. ない
問5　本日、家島諸島に来られるまでに、何か情報収集をしましたか。（○は一つ）	1. は　い　→問５（２）（３）もお答え下さい 2. いいえ　→問６に進んで下さい。
問5（2）問5で１. に○をつけた方にお尋ねします。どのような情報が役に立ちましたか。（○はいくつでも）	1. 家島への交通手段（利用する交通機関や乗り換え等） 2. 鉄道・バス・船の時刻 3. 移動にかかる費用（船等の運賃、高速料金等） 4. 観光施設の案内 5. 「しまたび」のプログラムの内容 6. 旅館や飲食店の場所や料金 7. 名物料理など飲食に関する情報（メニューや金額） 8. 体験型の観光に関する情報（できることや金額） 9. 天気予報 10. その他（　　　　　　　　　　）
問5（3）問5で 1.に○を付けた方にお尋ねします。どのような情報が手に入りにくかったですか。（○はいくつでも）	1. 家島への交通手段（利用する交通機関や乗り換え等） 2. 鉄道・バス・船の時刻 3. 移動にかかる費用（船等の運賃、高速料金等） 4. 観光施設の案内 5. 「しまたび」のプログラムの内容 6. 旅館や飲食店の場所や料金 7. 名物料理など飲食に関する情報（メニューや金額） 8. 体験型の観光に関する情報（できることや金額） 9. その他（　　　　　　　　　　）
問6　今回の家島諸島訪問で、どのようなことに期待されていましたか。（○はいくつでも）	1. 漁業体験　2. 料理体験 3. ものづくり体験　4. クルージング 5. 海の景観　6. 新鮮な魚料理 7. 島のまちなみ　8. 採石場の景観 9. 島の観光地巡り　10. 住民との交流 11. その他（　　　　　　　　　　）

質　問	回　答　欄
問7　実際に来られて感じた、全体的な評価を教えて下さい。（○は一つだけ）	1. とても満足した・期待した通りだった 2. 満足した・期待通りだった 3. どちらともいえない 4. 不満だった・期待はずれだった 5. とても不満だった・全く期待はずれだった 理由（　　　　　　　　　　）
問8　今回の家島訪問で、困ったことはありませんでしたか。該当する項目に○をつけて下さい。（○はいくつでも）	1. 目的地の場所を探すのに困った・手間取った 2. 島内の移動手段が限られた 3. 島内の移動に想定以上の時間がかかった 4. 気軽に入れる飲食店が少なかった・探すのに困った 5. 土産物を売っている店や施設が少なかった 6. コンビニや自動販売機が少なかった 7. 休憩施設やトイレを探すのに困った 8. 道路が狭く移動の安全が脅かされた 9. その他（　　　　　　　　　　） 10. 特に困ったことはなかった
問9　家島諸島ではどのくらいのお金を使われましたか。差し支えなければお答え下さい。	家族・グループ全体で 飲食に …………………（　　　　　　　）円くらい 土産物等の購入に ….（　　　　　　　）円くらい 宿泊に …………………（　　　　　　　）円くらい
問10　今後、また家島諸島に来てみたいと思いますか。（○は一つだけ）	1. とても思う　2. やや思う　3. どちらとも言えない 4. あまり思わない　5. 全く思わない
問11 家島諸島への交通手段についてお尋ねします。 （1）姫路港まではどのような交通手段を利用されましたか。（姫路港に着いた時の交通手段をお答え下さい。）（○は一つだけ）	1. 路線バス　2. 観光バス　3. タクシー　4. 自家用車 5. レンタカー　6. 自転車・バイク 7. その他（　　　　　　　　　　）
（2）姫路港～家島諸島はどのような交通手段を利用されましたか。（○は一つだけ）	1. 旅客船　→問12にお答え下さい 2. その他（　　　　　　　　）→問13へ
問12　問11で1. に○をつけた方にお尋ねします。姫路港や旅客船についてどのように感じましたか。（○はそれぞれ一つ）	
（1）旅客船の運航頻度・便数	1. 適切である　2. どちらともいえない　3. 少ない
（2）姫路港の時刻表のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（3）姫路港の切符売り場のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（4）姫路港の船乗り場のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（5）旅客船の乗り心地	1. 良い　2. どちらともいえない　3. 悪い
問13　ご自身のことについてお尋ねします。 （1）性別・年齢は？	1. 男性　2. 女性　（　　　　　）歳
（2）ご住所は？	1. 兵庫県内→（　　　　　）市町村 2. 兵庫県外→（　　　　　）都道府県
（3）家島諸島に来られたのは何回目ですか。	1. 今日が初めて　2. ２回目　3. ３回目 4. それ以上（　　　）回目
（4）今日はどなたと来られましたか。（○はいくつでも）	1. 家族　2. 親戚　3. 友人・知人・カップル 4. 地域の集まり・町内会　5. 職場の仲間 6. その他（　　　　　　　）
（5）何人ご一緒に来られましたか。	ご自身も含めて（　　　　　）人

ご協力ありがとうございました

家島諸島の魅力度調査･調査票

質　問	回　答　欄
問１　本日はどのような目的で家島諸島にお越しになりましたか。（○はいくつでも）	1. 家島「しまたび」への参加 →問１⑵にもお答え下さい 2. 家島諸島の観光地の訪問 →問２に進んで下さい 3. 新鮮な魚介類などの飲食 → 〃 4. 釣り → 〃 5. その他（　　　　　　　　）→ 〃
問１（２） 問１で１. に○をつけた方にお尋ねします。参加したプログラムの名称を教えて下さい。	（　　　　　　　　） ※ 参加プログラム名が不明の場合は記入不要
問２　今回は家島諸島のどこに行かれましたか。（○はいくつでも）	1. 家島本島　2. 坊勢島　3. 男鹿島 4. 西島　5. その他の島
問３　本日、家島諸島に来られた動機や理由を教えて下さい。（○はいくつでも）	1. 普段から何度も訪れているので特に動機はない 2. 以前、家島を訪れてよかった・楽しかったから 3. 以前から一度、行ってみたいと思っていたから 4. インターネットの記事やブログを読んで興味を持った 5. テレビやラジオの番組を見聞きして興味を持った 6. 家族や友人などから薦められて興味を持った 7. 旅行雑誌や旅行のサイトを見て興味を持った 8. その他（　　　　　　　　）
問４　本日は家島にお越しですが、他に比較検討したところがありますか？（○は一つ）	1. ある→（具体的に　　　　　　　　） 2. ない
問５　本日、家島諸島に来られるまでに、何か情報収集をしましたか。（○は一つ）	1. は　い　→問５(2)(3)もお答え下さい 2. いいえ　→問６に進んで下さい。
問５（２） 問５で１．に○をつけた方にお尋ねします。どのような情報が役に立ちましたか。（○はいくつでも）	1. 家島への交通手段（利用する交通機関や乗り換え等） 2. 鉄道・バス・船の時刻 3. 移動にかかる費用（船等の運賃、高速料金等） 4. 観光施設の案内 5. 「しまたび」のプログラムの内容 6. 旅館や飲食店の場所や料金 7. 名物料理など飲食に関する情報（メニューや金額） 8. 体験型の観光に関する情報（できることや金額） 9. 天気予報 10. その他（　　　　　　　　）
問５（３）　問５で１.に○を付けた方にお尋ねします。どのような情報が手に入りにくかったですか。（○はいくつでも）	1. 家島への交通手段（利用する交通機関や乗り換え等） 2. 鉄道・バス・船の時刻 3. 移動にかかる費用（船等の運賃、高速料金等） 4. 観光施設の案内 5. 「しまたび」のプログラムの内容 6. 旅館や飲食店の場所や料金 7. 名物料理など飲食に関する情報（メニューや金額） 8. 体験型の観光に関する情報（できることや金額） 9. その他（　　　　　　　　）
問６　今回の家島諸島訪問で、どのようなことに期待されていましたか。（○はいくつでも）	1. 漁業体験　2. 料理体験 3. ものづくり体験　4. クルージング 5. 海の景観　6. 新鮮な魚料理 7. 島のまちなみ　8. 採石場の景観 9. 島の観光地巡り　10. 住民との交流 11. その他（　　　　　　　　）
問７　実際に来られて感じた、全体的な評価を教えて下さい。（○は一つだけ）	1. とても満足した・全く期待した通りだった 2. 満足した・期待通りだった 3. どちらともいえない 4. 不満だった・期待はずれだった 5. とても不満だった・全く期待はずれだった 理由（　　　　　　　　）

質　問	回　答　欄
問8　今回の家島訪問で、困ったことはありませんでしたか。該当する項目に○をつけて下さい。（○はいくつでも）	1. 目的地の場所を探すのに困った・手間取った 2. 島内の移動手段が限られた 3. 島内の移動に想定以上の時間がかかった 4. 気軽に入れる飲食店が少なかった・探すのに困った 5. 土産物を売っている店や施設が少なかった 6. コンビニや自動販売機が少なかった 7. 休憩施設やトイレを探すのに困った 8. 道路が狭く移動の安全が脅かされた 9. その他（　　　　　　　　　　　　　　　　　） 10. 特に困ったことはなかった
問9　家島諸島ではどのくらいのお金を使われましたか。差し支えなければお答え下さい。	家族・グループ全体で 飲食に　・・・・・・・・　（　　　　　　　　　）円くらい 土産物等の購入に　・・　（　　　　　　　　　）円くらい 宿泊に　・・・・・・・・　（　　　　　　　　　）円くらい
問 10 今後、また家島諸島に来てみたいと思いますか。（○は一つだけ）	1. とても思う　2. やや思う　3. どちらとも言えない 4. あまり思わない　5. 全く思わない
問 11 家島諸島への交通手段についてお尋ねします。 （1）姫路港まではどのような交通手段を利用されましたか。（姫路港に着いた時の交通手段をお答え下さい。）（○は一つだけ）	1. 路線バス　2. 観光バス　3. タクシー　4. 自家用車 5. レンタカー　6. 自転車・バイク 7. その他（　　　　　　　　　　　　　）
（2）姫路港～家島諸島はどのような交通手段を利用されましたか。（○は一つだけ）	1. 旅客船　→問 12 にお答え下さい 2. その他（　　　　　　　　　　　　　）→問 13 へ
問 12　問 11 で1．に○をつけた方にお尋ねします。 姫路港や旅客船についてどのように感じましたか。（○はそれぞれ一つ）	
（1）　旅客船の運航頻度・便数	1. 適切である　2. どちらともいえない　3. 少ない
（2）　姫路港の時刻表のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（3）　姫路港の切符売り場のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（4）　姫路港の船乗り場のわかりやすさ	1. わかりやすい　2. どちらともいえない　3. わかりにくい
（5）　旅客船の乗り心地	1. 良い　2. どちらともいえない　3. 悪い
問 13　ご自身のことについてお尋ねします。 （1）　性別・年齢は？	1. 男性　2. 女性　（　　　　　）歳
（2）　ご住所は？	1. 兵庫県内→（　　　　　）市町村 2. 兵庫県外→（　　　　　）都道府県
（3）　家島諸島に来られたのは何回目ですか。	1. 今日が初めて　2. 2回目　3. 3回目 4. それ以上（　　　）回目
（4）　今日はどなたと来られましたか。（○はいくつでも）	1. 家族　2. 親戚　3. 友人・知人・カップル 4. 地域の集まり・町内会　5. 職場の仲間 6. その他（　　　　　　　　）
（5）　何人ご一緒に来られましたか。	ご自身も含めて（　　　　）人

ご参加いただきました【家島しまたびツアー】についてお尋ねします。

問 14　ご参加された下記のコースに○をつけてください。

A-1	往復乗船券付き宿泊プラン
A-2	家島しまたび往復乗船券付き昼食プラン
B	坊勢島　底引き網漁見学、ぼうぜ鯖給餌（えさやり）体験（日帰りコース）
C-1	底引き網漁体験とパーソナリティと歩く「坊勢島あるき」、四十四クルーズ（１泊２日コース）
C-2	パーソナリティと歩く「坊勢島あるき」と島ごはんのお弁当＆四十四（しあわせ）クルーズ（日帰りコース）
D	祭りの真浦散策と前獲れ魚料理＆四十四（しあわせ）クルーズ（日帰りコース）
Ｅ－1	家島散策と底引き網漁体験　で獲れた魚で島ごはん（1 泊２日コース）
Ｅ－2	底引き網漁体験　で獲れた魚で島ごはん（日帰りコース）
F	漁師町「宮」散策・家島特産『のり工場見学』と「かわさき」でいただく本格島ごはん（日帰りコース）
G-1	家島散策と坊勢島名物　新鮮！前どれ魚介類の出買いと魚のさばき方教室（1 泊２日コース）
G-2	坊勢島名物　新鮮！前どれ魚介類の出買いと魚のさばき方教室（日帰りコース）
H-1	『帆船みらいへ』体験航海と家島しま遊び　（Ａ家島コース）
H-2	『帆船みらいへ』体験航海と家島諸島しま遊び（Ｂ西島コース）

問 15. あなたは、当ツアーの情報をどこでお知りになりましたか。（○はいくつでも）

1　リビング姫路記事	6　その他雑誌やフリーペーパー（広告や記事）
2　その他新聞記事	7　旅行会社の店頭（店員・ちらし）
3　家島観光事業組合のホームページ	8　チラシやポスター、パンフレット
4　旅行会社（株式会社ＪＴＢ）のウェブサイト	9　友人や知人からの口コミ・誘い
5　その他ウェブサイトや SNS の記事	10 その他（　　　　　　　　　　）

問 16　当ツアーに参加されて、どの程度満足されましたか。項目別にお知らせください。（それぞれ○は１つ）

	① とても満足した	② 満足した	③ どちらともいえない	④ 満足しなかった	⑤ 全く満足しなかった
(1)旅行先（家島地域）					
(2)しまたびプログラム					
(4)ツアーの行程（スケジュール）					
(5)食事					
(6)係員の案内・対応等					
(7)地域の人々との交流					
(8)ツアー代金					
(9)ツアー全体を総合的に見て					

問 17. 今回のツアー代金について、下記の内からお聞かせください。

1　安い　　2　やや安い　　3　適当･丁度いい　　4　やや高い　　5 高い

問 18. また、いくらぐらいまでであれば、次回も参加したいと思いますか？

1　9 千円～1 万円　　2　8～9 千円　　3　7～8 千円　　4　6～7 千円　　5　6 千円以下

問 19　共通乗船券（姫路港～家島）をご利用の皆様のみご記入ください。
このたびは、国土交通省の実証実験として２社の船舶の共通乗船券をご利用いただきましたが、使いやすさについて、お答えください。

1　非常に便利で使いやすい　　2　便利で使いやすい　　3　どちらともいえない　　4　便利とは思わない。　　5 なくてもいい

問 20　船の旅についてお聞かせください。

1　非常に快適　　2　快適　　3　どちらともいえない　　4　あまり快適でない　　5 快適でない

問 21　旅客船に対する望むサービスや、その他当ツアー内容に対するご意見・改善が必要と思われる点等がございましたらどのようなことでも結構ですのでお知らせ下さい。

（　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

ご協力ありがとうございました。
同封の返信用封筒でご送付いただきますようお願い申し上げます。

1001

家島諸島への観光に関するアンケート調査

平素は、国土交通行政にご理解をいただきありがとうございます。

国土交通省神戸運輸監理部では、観光などの利用による家島航路の維持・活性化のために「家島諸島航路における交流人口拡大による航路確保・維持に関する調査」を行っており、その一環として、家島諸島の観光に関するアンケートを実施することとしました。

つきましては、趣旨をご理解のうえ、ご協力をよろしくお願いいたします。なお、回答は全て統計的に処理し、内容は個別に公表することはありません。また、個人情報は厳格に管理し、この調査の分析以外には一切使用しません。

本アンケートは、株式会社シティプランニングに委託して実施させていただいております。

調査主体：国土交通省神戸運輸監理部

受託事業者：株式会社シティプランニング

質　問	回　答　欄
問1　家島諸島のことを知っていますか。（○は一つだけ）	1. 家島諸島の名称や位置を知っている →問２へ 2. 家島諸島の名称は聞いたことがある →問２へ 3. 家島諸島のことは全く知らない →問８へ
問2　家島諸島にも観光スポットがあることをご存知ですか。（○は一つだけ）	1. 知っている　　→問３へ 2. 知らなかった　→問５へ
問3　家島諸島の観光について情報収集したことがありますか。（○は一つだけ）	1. ある　→問４へ 2. ない　→問５へ
問4　問3で 1. に○をつけた方にお尋ねします。 （1）どのような情報を収集したことがありますか。（○はいくつでも）	1. 観光スポット 2. 観光ツアー 3. 交通手段（経路・所要時間・運賃など） 4. 飲食施設 5. 宿泊施設 6. 観光地の評判（口コミ情報、ブログ記事など） 7. その他（　　　　　　　　　　　）
（2）どのような方法で情報収集されましたか。（○はいくつでも）	1. 姫路市のホームページ 2. 観光事業組合や観光施設等のホームページ 3. 旅行会社や旅行サイトのホームページ 4. ブログの記事や旅行記などインターネット 5. 家族や友人・知人などの口コミ 6. 旅行雑誌などの出版物 7. チラシやパンフレット 8. その他（　　　　　　　　　　　）
問5　家島諸島に観光に行ってみたいと思いますか。（○は一つだけ）	1. 行ってみたいと思う　　　→問６へ 2. 行ってみたいと思わない　→問７へ 3. どちらともいえない・わからない　→問８へ
問6　問5で 1. に○をされた方にお尋ねします。「行ってみたい」のにまだ「行っていない」のはなぜですか。（○はいくつでも）	1. 他に行きたいところがありそれを優先しているから 2. 家島諸島に関する情報が十分でないから 3. 船が苦手だから 4. 家島諸島まで行くには時間がかかるから 5. 家島諸島まで行くには交通費が嵩むから 6. その他（　　　　　　　　　　　）

質　問	回　答　欄
問7　問5で 2. に○をされた方にお尋ねします。「行ってみたいと思わない」のはなぜですか。（○はいくつでも）	1. 他にもっと行きたいところがあるから 2. 情報が少なく、家島諸島のことがよくわからないから 3. もともと家島諸島には興味がないから 4. 船が苦手だから 5. 家島諸島まで行くには時間がかかるから 6. 家島諸島まで行くには交通費が嵩むから 7. その他（　　　　　　　　　　　　　　）
問8　家島諸島以外の離島（小豆島、直島など）に行ったことはありますか？（○は一つだけ）	1. ある →（具体的に　　　　　　　　　　　） 2. ない
問9　性別・年齢は？	1. 男性　2. 女性　　（　　　　　　）歳
問 10 ご住所は？	1. 兵庫県内→（　　　　　　）市町村 2. 兵庫県外→（　　　　　　）都道府県

ご協力ありがとうございました